

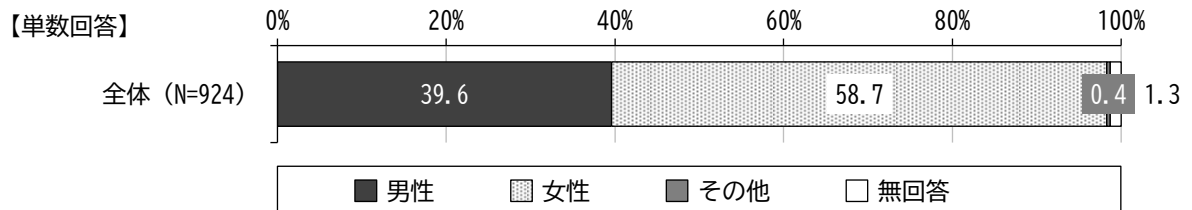
第2章 市民（18歳以上）調査結果

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

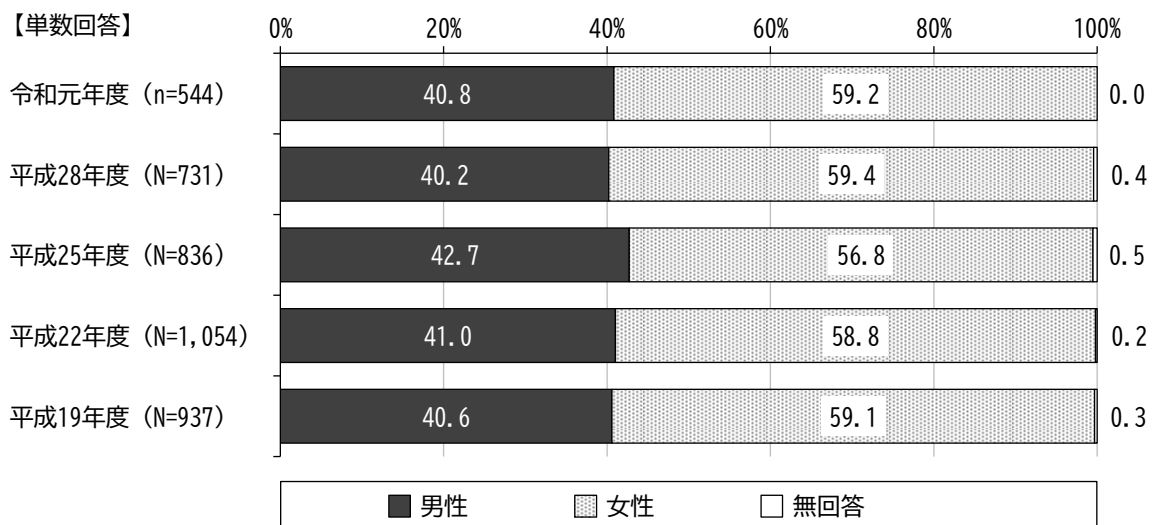
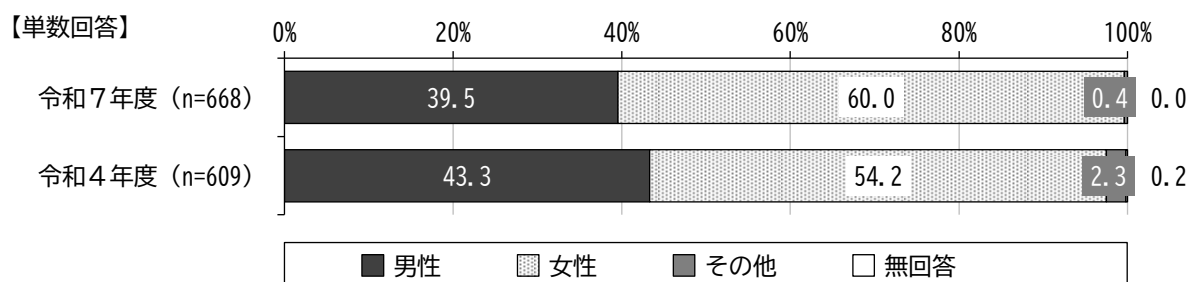
1 あなた（ご本人）についておたずねします

問1 性別を教えてください。（1つに○）

○ 回答者の性別は、「男性（39.6%）」、「女性（58.7%）」、「その他（0.4%）」である。



○ 経年で比較すると、今回の性別比は、これまでの調査のうち、男性割合が最も少なく、女性割合が最も多くなっている。

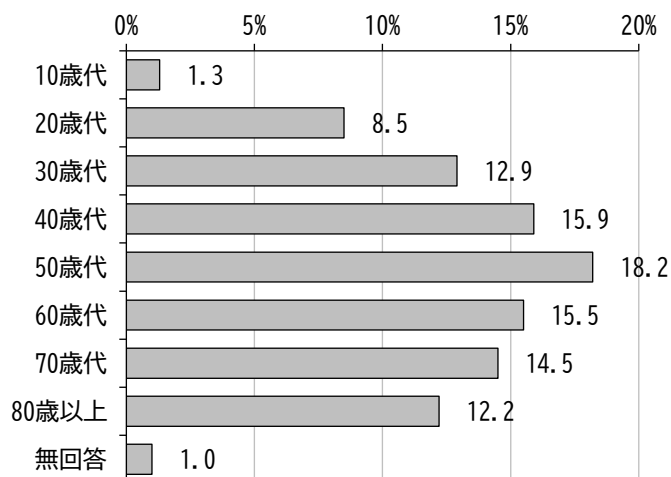


※「その他」は令和4年度調査では「回答しない」

問2 年齢を教えてください。(1つに○)(令和7年10月1日現在)

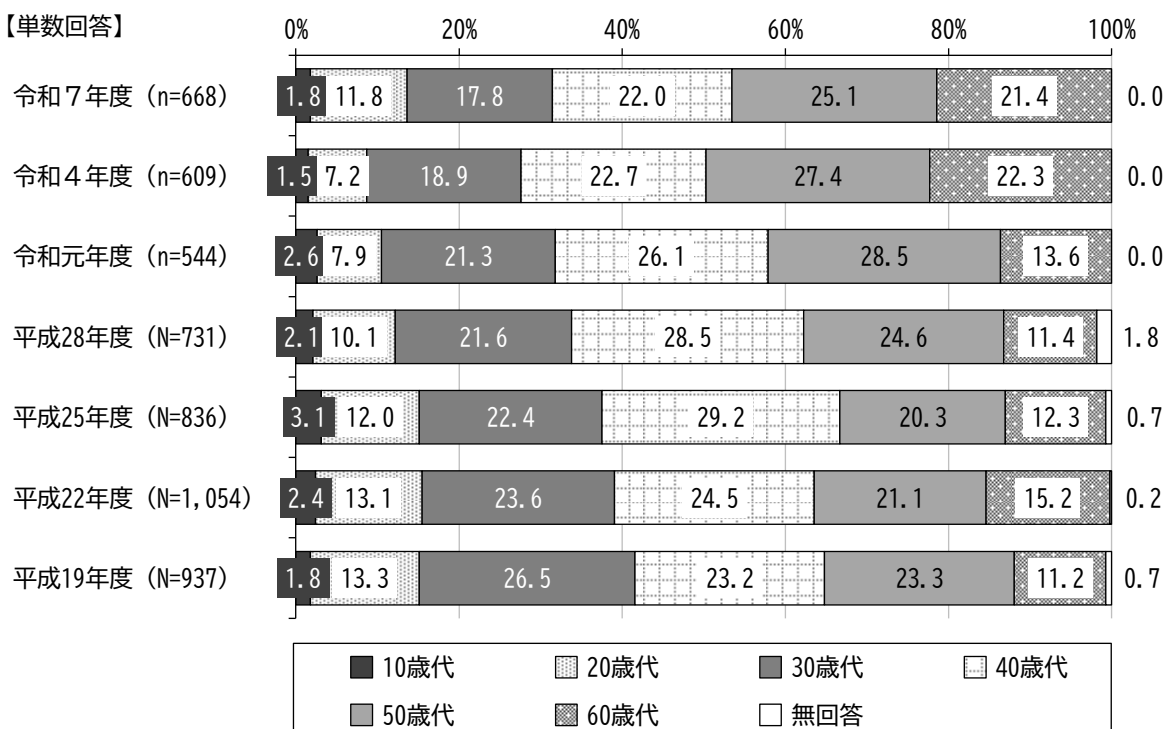
- 年齢は、「50 歳代 (18.2%)」が最も多く、「40 歳代 (15.9%)」,「60 歳代 (15.5%)」が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



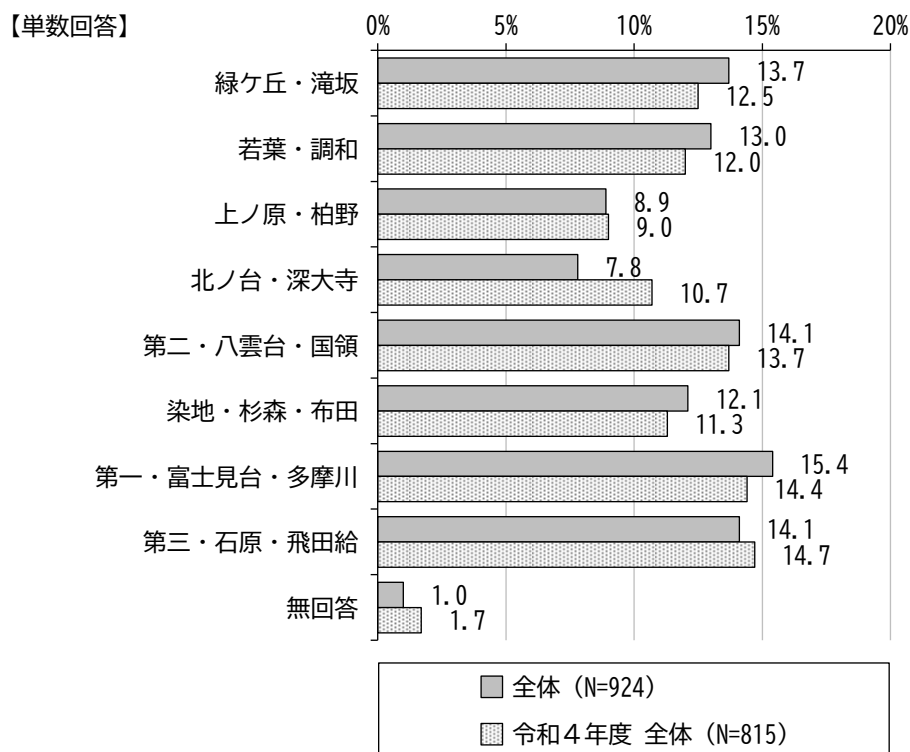
- 経年で比較すると、今回の年齢割合はこれまでの調査に比べて、「30 歳代」と「40 歳代」がやや少なくなっている。

【単数回答】



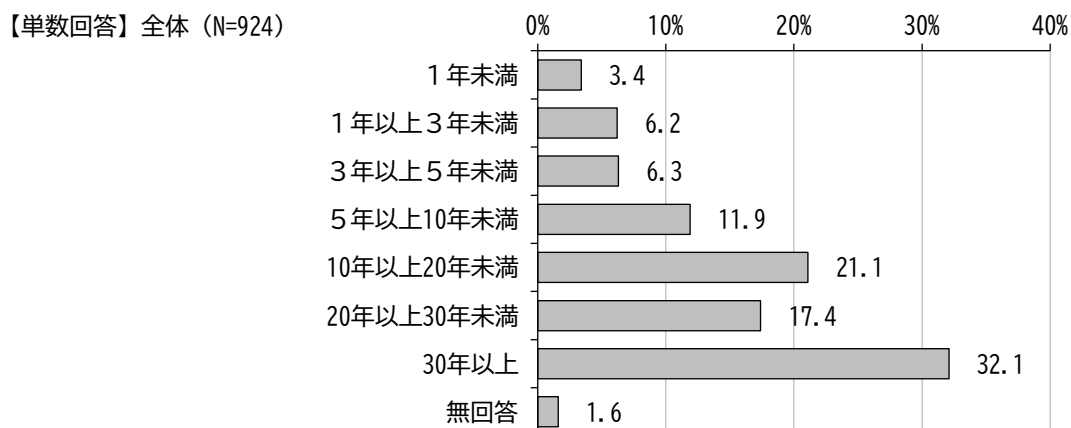
問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域の割合を福祉圏域別にみると、「第一・富士見台・多摩川 (15.4%)」が最も多く、「第二・八雲台・国領 (14.1%)」「第三・石原・飛田給 (14.1%)」、「緑ヶ丘・滝坂 (13.7%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問4 市内での居住年数（市外への転居期間を除く通算年数）を教えてください。(1つに○)

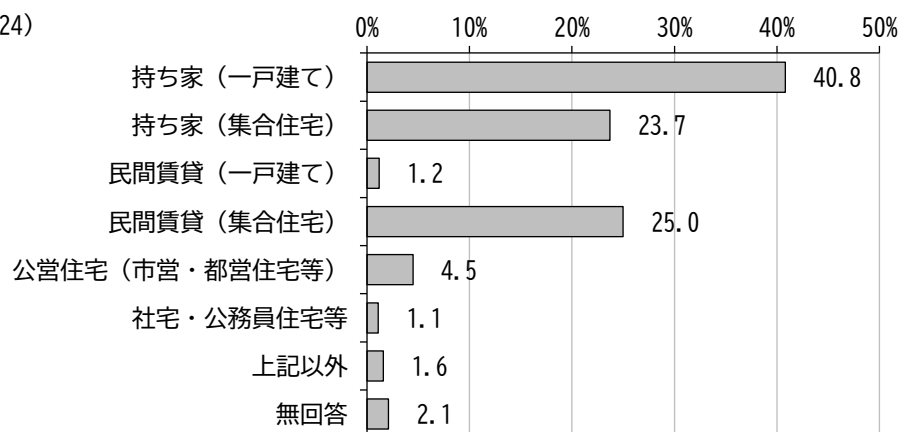
- 居住年数は、「30年以上 (32.1%)」が最も多く、「10年以上20年未満 (21.1%)」、「20年以上30年未満 (17.4%)」が続いている。



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 住居形態は、「持ち家（一戸建て）（40.8%）」が最も多く、「民間賃貸（集合住宅）（25.0%）」、「持ち家（集合住宅）（23.7%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）



－ 回答者属性分析 －

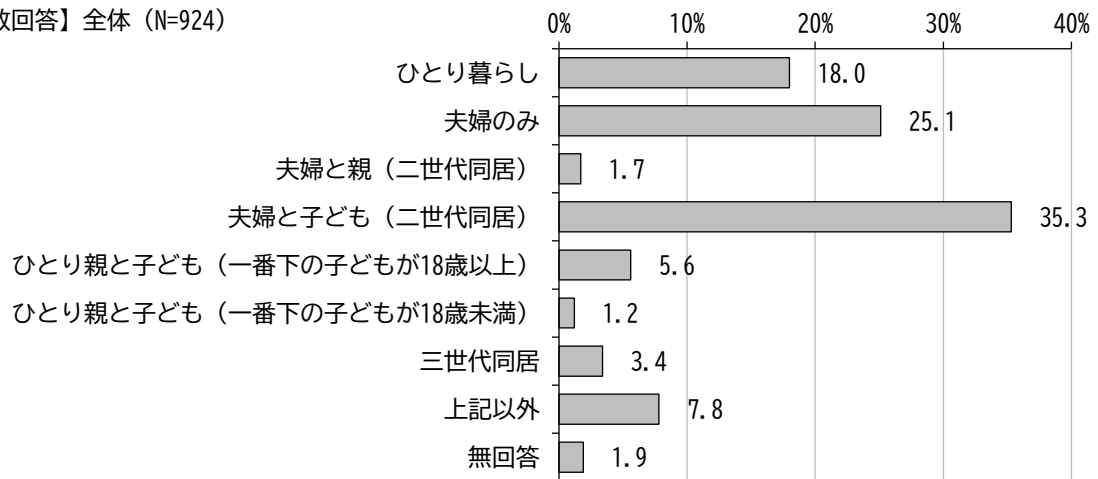
- 住居形態の割合を福祉圏域別にみると、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「持ち家（集合住宅）」、第二・八雲台・国領小学校地域で「民間賃貸（集合住宅）」、それ以外の地域で「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっている。また、北ノ台・深大寺小学校地域で「持ち家（一戸建て）」が8割を超えている。

単位：%		持ち家（一戸建て）	持ち家（集合住宅）	民間賃貸（一戸建て）	民間賃貸（集合住宅）	公営住宅（市営・都営住宅等）	社宅・公務員住宅等	上記以外	無回答
全体（N=924）		40.8	23.7	1.2	25.0	4.5	1.1	1.6	2.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	38.6	23.6	1.6	31.5	1.6	1.6	0.0	1.6
	若葉・調和（n=120）	45.8	14.2	1.7	26.7	5.0	0.0	5.8	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	50.0	31.7	0.0	13.4	0.0	2.4	0.0	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	81.9	1.4	2.8	8.3	1.4	0.0	1.4	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	26.9	26.2	0.0	28.5	12.3	0.0	2.3	3.8
	染地・杉森・布田（n=112）	37.5	28.6	1.8	17.0	9.8	1.8	0.9	2.7
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	26.1	35.2	0.7	31.7	0.7	2.8	1.4	1.4
	第三・石原・飛田給（n=130）	43.1	20.8	1.5	30.0	3.1	0.0	0.8	0.8

問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

- 家族構成は、「夫婦と子ども(二世世代同居)(35.3%)」が最も多く、「夫婦のみ(25.1%)」,
「ひとり暮らし(18.0%)」が続いている。

【単数回答】全体(N=924)



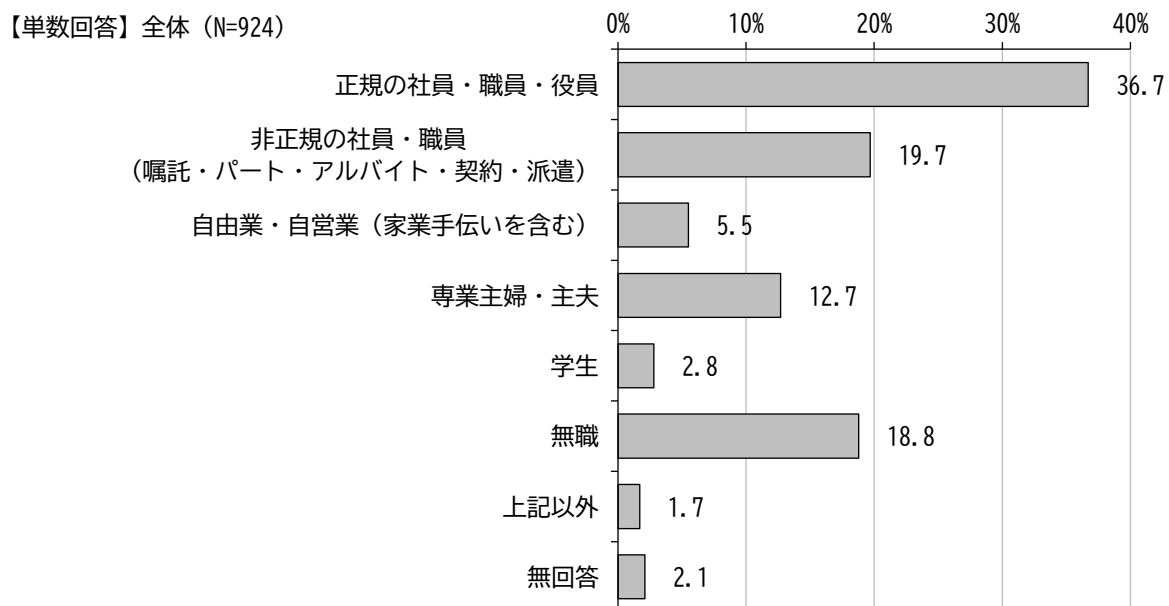
－ 回答者属性分析 －

- 家族構成の割合を年代別にみると、60 歳代、70 歳代、80 歳以上で「夫婦のみ」、それ以外の年代で「夫婦と子ども（二世世代同居）」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、上ノ原・柏野小学校地域で「夫婦のみ」、それ以外の地域で「夫婦と子ども（二世世代同居）」が最も多くなっている。また、第二・八雲台・国領小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域で「ひとり暮らし」が2割を超えている。

単位：％		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と親（二世世代同居）	夫婦と子ども（二世世代同居）	ひとりが親と子ども（一番下の子どもが18歳以上）	ひとりが親と子ども（一番下の子どもが18歳未満）	三世世代同居	左記以外	無回答
全体（N=924）		18.0	25.1	1.7	35.3	5.6	1.2	3.4	7.8	1.9
年代別	10歳代（n=12）	0.0	0.0	0.0	58.3	8.3	0.0	16.7	16.7	0.0
	20歳代（n=79）	22.8	10.1	0.0	35.4	5.1	1.3	6.3	19.0	0.0
	30歳代（n=119）	22.7	15.1	0.8	50.4	0.8	0.8	3.4	5.9	0.0
	40歳代（n=147）	15.6	10.9	2.0	53.7	3.4	3.4	1.4	8.8	0.7
	50歳代（n=168）	10.7	22.6	2.4	45.2	6.0	2.4	1.8	8.3	0.6
	60歳代（n=143）	15.4	40.6	3.5	22.4	7.7	0.0	4.9	2.8	2.8
	70歳代（n=134）	17.9	43.3	1.5	20.9	6.0	0.0	2.2	5.2	3.0
	80歳以上（n=113）	27.4	31.0	0.9	12.4	9.7	0.0	4.4	8.8	5.3
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	18.1	24.4	1.6	37.8	3.1	1.6	5.5	7.1	0.8
	若葉・調和（n=120）	13.3	30.8	1.7	35.0	5.8	0.8	5.0	6.7	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	12.2	35.4	3.7	32.9	7.3	0.0	2.4	3.7	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	9.7	25.0	0.0	37.5	6.9	1.4	4.2	12.5	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	23.1	23.1	1.5	31.5	7.7	0.8	0.8	7.7	3.8
	染地・杉森・布田（n=112）	17.9	20.5	0.9	33.0	6.3	1.8	5.4	10.7	3.6
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	23.2	22.5	1.4	39.4	3.5	1.4	1.4	6.3	0.7
	第三・石原・飛田給（n=130）	17.7	23.8	3.1	35.4	5.4	1.5	3.1	9.2	0.8

問7 現在の職業を教えてください。(1つに○)

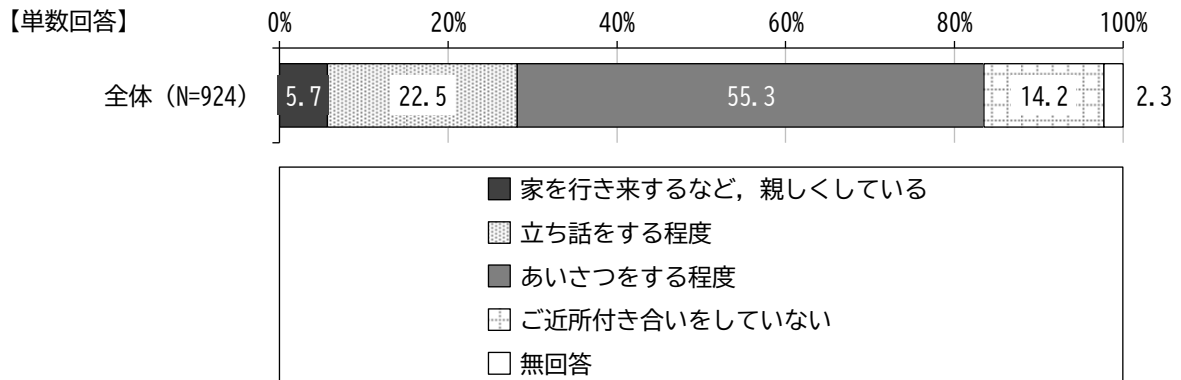
- 職業は、「正規の社員・職員・役員(36.7%)」が最も多く、「非正規の社員・職員(嘱託・パート・アルバイト・契約・派遣)(19.7%)」,「無職(18.8%)」が続いている。



2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。(主なもの1つに○)

- 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（55.3%）」が最も多く、「立ち話をする程度（22.5%）」、「ご近所付き合いをしていない（14.2%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は28.2%となっている。

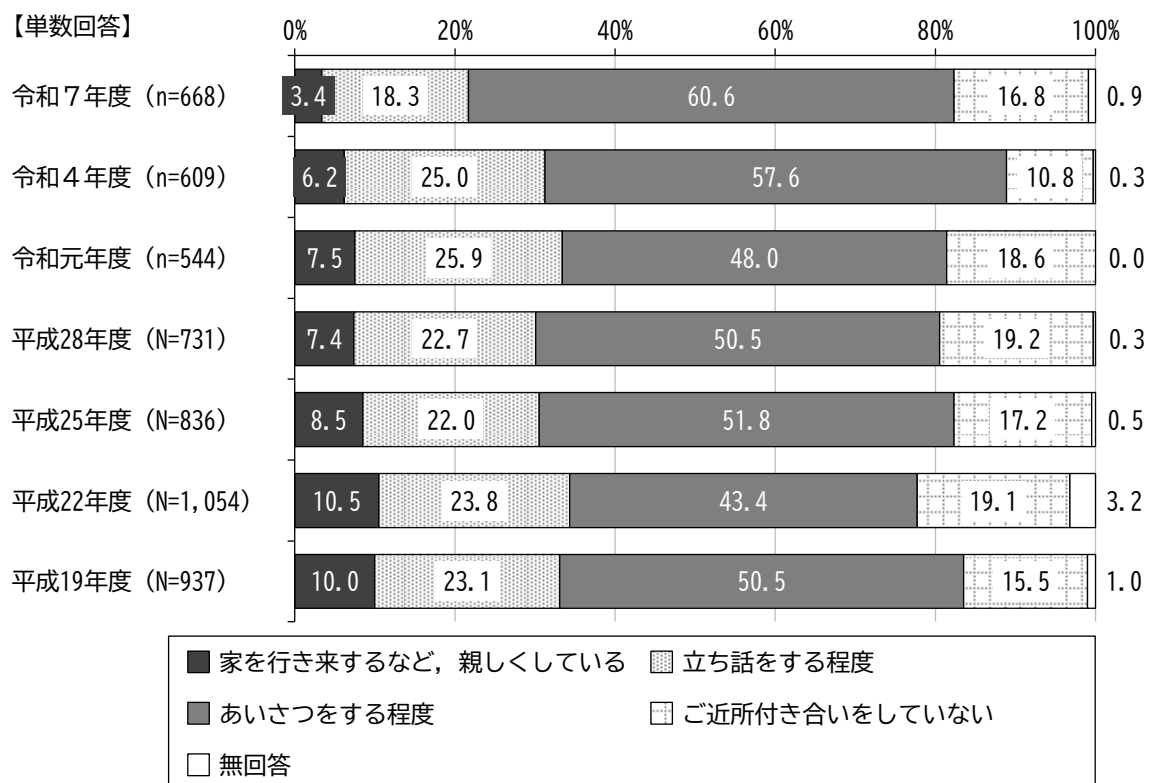


－ 回答者属性分析 －

- 近所付き合いの状況の割合を性別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、男性で21.6%，女性で32.4%となっている。
- 年代別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、10歳代で25.0%，20歳代以上では年代が上がるほど割合が多くなる傾向がみられ、70歳代、80歳以上では4割を超えている。
- 福祉圏域別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、緑ヶ丘・滝坂小学校地域で16.6%と、それ以外の地域と比べて少なくなっている。
- 家族構成別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、ひとり暮らしで22.3%，ひとり暮らし以外で30.2%となっている。また、ひとり暮らしでは「ご近所付き合いをしていない」の割合が全体と比べて26.2ポイント高くなっている。
- 住居形態別にみると、『親密な近所付き合いをしている』の割合は、持ち家（一戸建て）で38.8%，持ち家（集合住宅）で30.6%，民間賃貸（集合住宅）で9.5%，公営住宅（市営・都営住宅等）で42.8%となっている。また、民間賃貸（集合住宅）では「ご近所付き合いをしていない」の割合が全体と比べて21.7ポイント高くなっている。

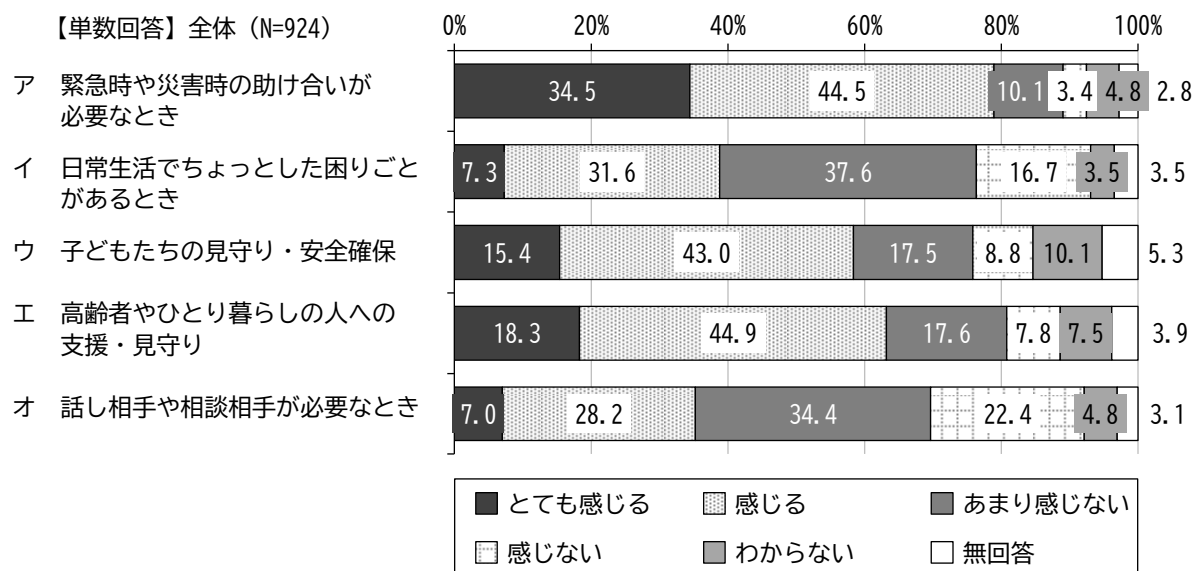
単位：％		親家 を し く し て い る な ど ，	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	い ご 近 所 付 き 合 い を し て い ない	無 回 答	を『親 密な 近 所 付 き 合 い を し て い る』
全体（N=924）		5.7	22.5	55.3	14.2	2.3	28.2
性 別	男性（n=366）	4.1	17.5	59.6	16.1	2.7	21.6
	女性（n=542）	6.6	25.8	53.0	13.1	1.5	32.4
	その他（n=4）	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
年 代 別	10歳代（n=12）	0.0	25.0	58.3	16.7	0.0	25.0
	20歳代（n=79）	0.0	5.1	65.8	29.1	0.0	5.1
	30歳代（n=119）	1.7	11.8	58.0	28.6	0.0	13.5
	40歳代（n=147）	4.1	15.0	66.0	14.3	0.7	19.1
	50歳代（n=168）	4.8	22.6	62.5	9.5	0.6	27.4
	60歳代（n=143）	4.9	28.7	52.4	11.2	2.8	33.6
	70歳代（n=134）	12.7	34.3	45.5	5.2	2.2	47.0
	80歳以上（n=113）	10.6	34.5	36.3	9.7	8.8	45.1
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	2.4	14.2	63.8	18.9	0.8	16.6
	若葉・調和（n=120）	10.0	28.3	49.2	10.8	1.7	38.3
	上ノ原・柏野（n=82）	4.9	23.2	58.5	11.0	2.4	28.1
	北ノ台・深大寺（n=72）	4.2	30.6	56.9	2.8	5.6	34.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	4.6	20.0	50.0	20.0	5.4	24.6
	染地・杉森・布田（n=112）	7.1	22.3	55.4	12.5	2.7	29.4
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	6.3	17.6	54.2	21.8	0.0	23.9
	第三・石原・飛田給（n=130）	5.4	28.5	56.9	8.5	0.8	33.9
家 族 構 成 別	ひとり暮らし（n=166）	5.4	16.9	37.3	40.4	0.0	22.3
	ひとり暮らし以外（n=740）	5.9	24.3	60.4	8.6	0.7	30.2
住 居 形 態 別	持ち家（一戸建て）（n=377）	7.2	31.6	56.0	4.5	0.8	38.8
	持ち家（集合住宅）（n=219）	7.3	23.3	59.4	9.6	0.5	30.6
	民間賃貸（一戸建て）（n=11）	9.1	9.1	72.7	9.1	0.0	18.2
	民間賃貸（集合住宅）（n=231）	1.7	7.8	54.5	35.9	0.0	9.5
	公営住宅（市営・都営住宅等）（n=42）	9.5	33.3	52.4	4.8	0.0	42.8
	社宅・公務員住宅等（n=10）	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	10.0
	上記以外（n=15）	6.7	26.7	40.0	20.0	6.7	33.4

- 経年で比較すると、今回の『親密な近所付き合いをしている』の割合は、これまでの調査のうち、最も少なくなっている。



問9 どのような時にご近所付き合いの必要性を感じますか。(それぞれ1つに○)

- 近所付き合いの必要性について、「とても感じる」と「感じる」を合わせた『感じる』の割合は、[ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき (79.0%)] が最も多く、[エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り (63.2%)], [ウ 子どもたちの見守り・安全確保 (58.4%)] が続いている。



－ 回答者属性分析 －

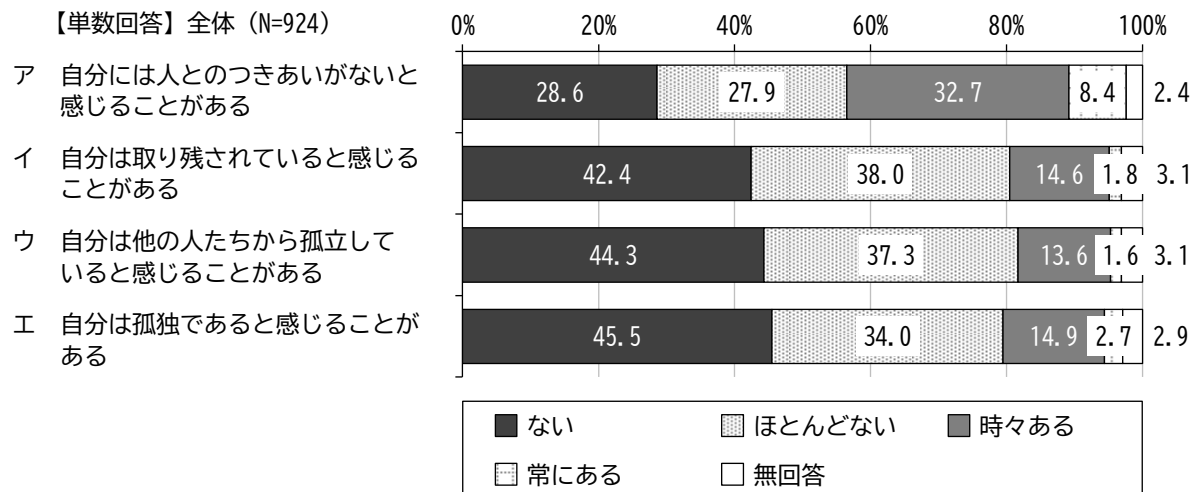
- 近所付き合いの必要性を『感じる』の割合を年代別にみると、すべての年代で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての圏域で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らし、ひとり暮らし以外ともに [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっているが、ひとり暮らしでは全体と比べて 12.7 ポイント低くなっている。
- 住居形態別にみると、公営住宅（市営・都営住宅等）で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] と [エ 高齢者やひとり暮らしの人への支援・見守り] が同率となっている。それ以外の区分で [ア 緊急時や災害時の助け合いが必要なとき] が最も多くなっている。

<『感じる』の割合>

単位：％		ア 合 緊 急 が 必 要 な 時 き	イ た 日 常 生 活 で あ る と き	ウ 安 子 ど も た ち の 見 守 り ・ 保 護	エ の 高 齢 者 や ひ と り 暮 ら し の 支 援 ・ 見 守 り	オ 必 話 し 相 手 や 相 談 相 手 が な と き
全体 (N=924)		79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
年 代 別	10歳代 (n=12)	91.7	25.0	75.0	50.0	33.3
	20歳代 (n=79)	81.0	20.2	63.3	50.7	17.7
	30歳代 (n=119)	74.8	32.0	67.2	53.8	31.1
	40歳代 (n=147)	81.0	38.1	64.6	64.6	32.7
	50歳代 (n=168)	84.0	42.2	60.7	74.4	33.9
	60歳代 (n=143)	80.5	46.9	60.9	73.4	41.3
	70歳代 (n=134)	78.4	42.6	50.8	62.6	41.0
	80歳以上 (n=113)	70.0	43.4	40.7	54.9	44.3
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	79.5	37.8	54.4	61.4	29.1
	若葉・調和 (n=120)	80.0	47.5	55.0	60.8	33.4
	上ノ原・柏野 (n=82)	73.1	26.9	52.4	56.1	28.1
	北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	40.3	59.7	66.7	31.9
	第二・八雲台・国領 (n=130)	75.4	31.5	59.2	66.9	30.8
	染地・杉森・布田 (n=112)	81.2	41.1	66.1	67.8	39.2
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	81.0	42.3	54.9	62.0	39.4
	第三・石原・飛田給 (n=130)	80.0	41.5	66.9	65.4	46.9
家 族 構 成 別	ひとり暮らし (n=166)	66.3	29.5	37.9	52.5	29.5
	ひとり暮らし以外 (n=740)	83.7	41.8	64.0	67.1	37.5
住 居 形 態 別	持ち家（一戸建て） (n=377)	85.9	44.3	68.1	67.6	39.5
	持ち家（集合住宅） (n=219)	81.7	43.8	58.0	70.3	42.0
	民間賃貸（一戸建て） (n=11)	91.0	18.2	36.4	54.6	9.1
	民間賃貸（集合住宅） (n=231)	69.3	24.7	49.8	53.3	26.0
	公営住宅（市営・都営住宅等） (n=42)	76.2	69.1	54.8	76.2	47.6
	社宅・公務員住宅等 (n=10)	100.0	40.0	70.0	50.0	20.0
	上記以外 (n=15)	80.0	20.0	33.3	46.7	6.7

問 10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある (41.1%)] が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある (17.6%)]、[イ 自分は取り残されていると感じることがある (16.4%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 問 10 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」と呼ばれ、間接的な質問（間接質問）により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和6年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12点」（常にある）、「7～9点」（時々ある）、「4～6点」（ほとんどない）、「3点」（決してない）の4区分に整理した。
- 間接質問のスコア化の結果を性別にみると、男性、女性ともに「ほとんどない」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、70歳代で「決してない」、20歳代、30歳代、50歳代、80歳以上で「ほとんどない」、40歳代、60歳代で「時々ある」が最も多く、10歳代で「決してない」と「時々ある」が同率となっている。

<孤独感尺度>

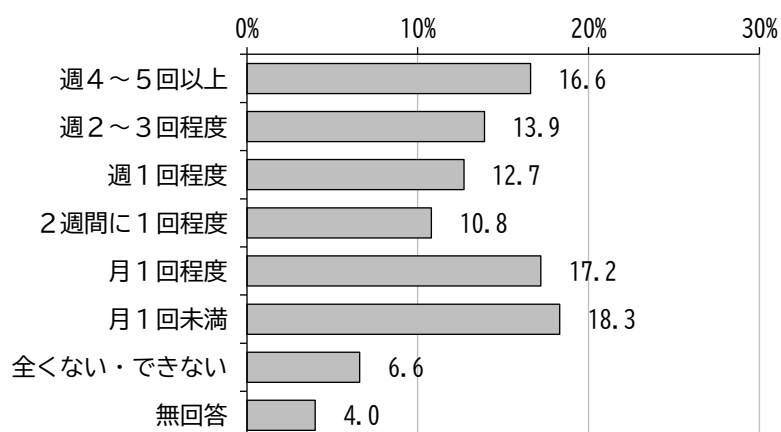
		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=924)		25.2	37.7	31.3	2.6	3.2
性別	男性 (n=366)	24.9	36.6	32.0	2.7	3.8
	女性 (n=542)	25.6	38.4	31.2	2.6	2.2
	その他 (n=4)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	33.3	8.3	0.0
	20歳代 (n=79)	32.9	40.5	22.8	2.5	1.3
	30歳代 (n=119)	20.2	42.0	37.0	0.8	0.0
	40歳代 (n=147)	21.1	36.1	38.8	3.4	0.7
	50歳代 (n=168)	20.2	36.9	35.7	6.5	0.6
	60歳代 (n=143)	26.6	32.9	35.0	2.1	3.5
	70歳代 (n=134)	38.8	38.1	20.9	0.0	2.2
	80歳以上 (n=113)	20.4	41.6	23.0	0.9	14.2

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す(手話等を含む)

○ 直接会って話す(手話等を含む)頻度は、「月1回未満(18.3%)」が最も多く、「月1回程度(17.2%)」、「週4～5回以上(16.6%)」が続いている。

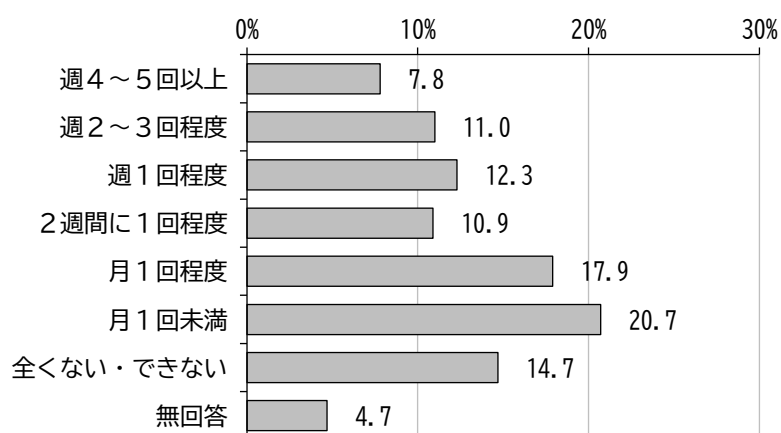
【単数回答】全体 (N=924)



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回未満（20.7%）」が最も多く、「月1回程度（17.9%）」、「全くない・できない（14.7%）」が続いている。

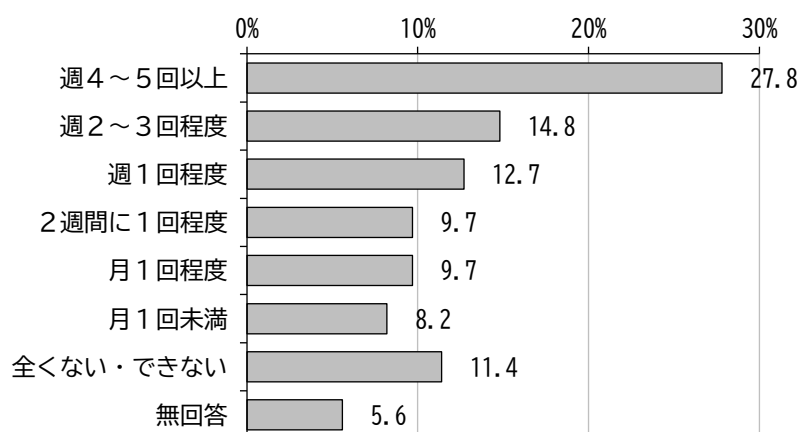
【単数回答】全体（N=924）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（27.8%）」が最も多く、「週2～3回程度（14.8%）」、「週1回程度（12.7%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）

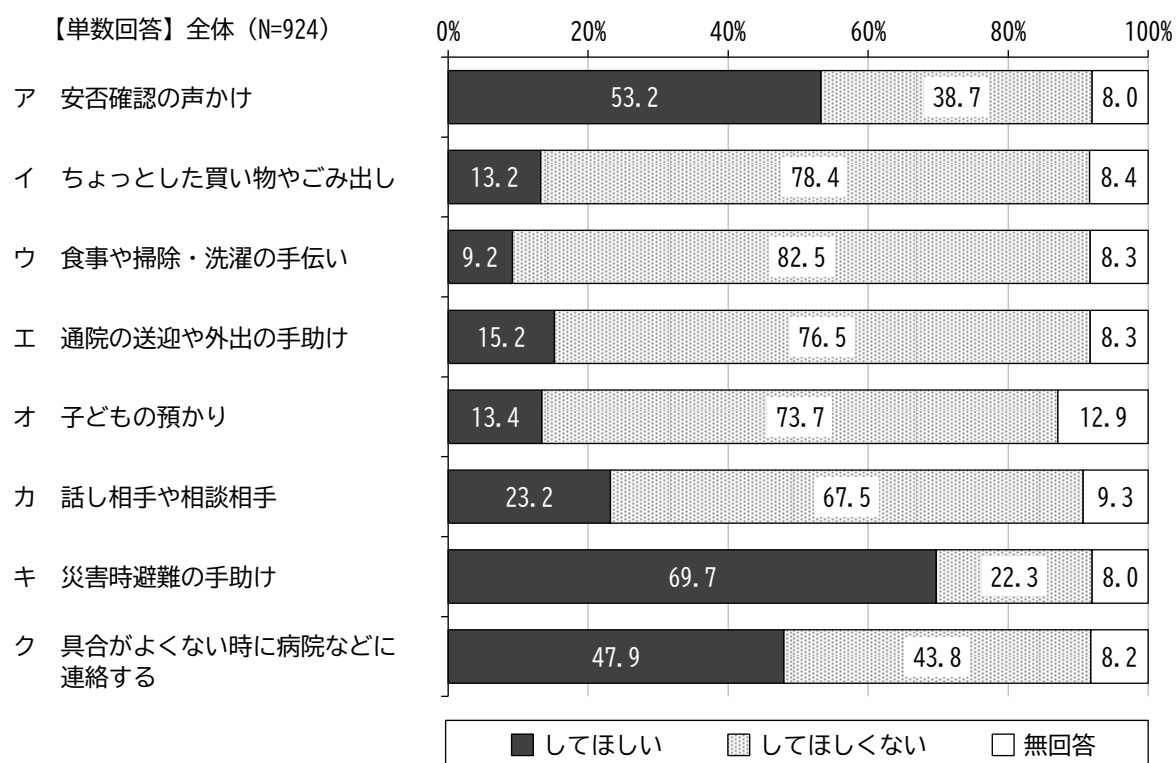


3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

問 12 あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。
①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

①手助けしてほしいか

○ 手助けを「してほしい」の割合は、[キ 災害時避難の手助け（69.7%）]が最も多く、[ア 安否確認の声かけ（53.2%）]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する（47.9%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

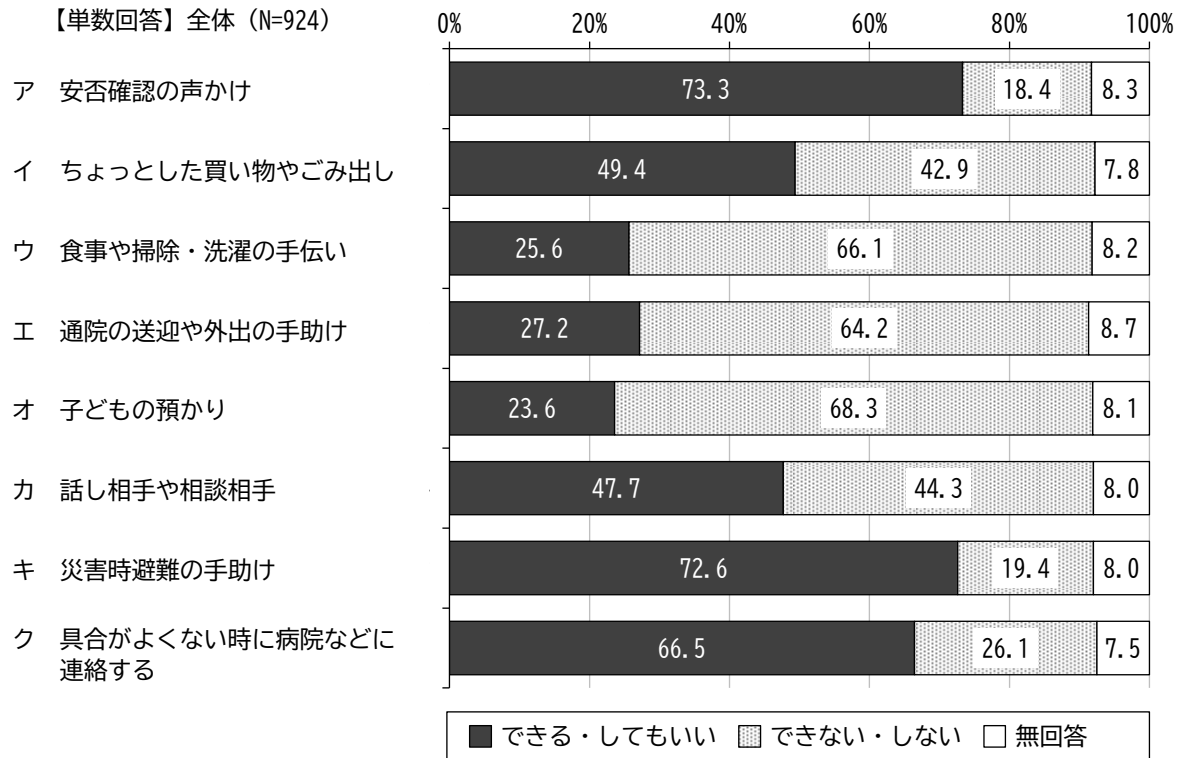
- 手助けを「してほしい」の割合を性別にみると、男性、女性ともに〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。

< 「してほしい」の割合 >

単位：％		ア 安否確認の 声かけ	イ ちやごみ つとした 買い物	ウ 食事や 掃除・洗 濯の手 伝い	エ 通院の 送迎や 外出の 手助け	オ 子ども の預かり	カ 話し相手 や相談相手	キ 災害時 避難の手 助け	ク 具合が よくない 連絡する に
全体 (N=924)		53.2	13.2	9.2	15.2	13.4	23.2	69.7	47.9
性別	男性 (n=366)	51.4	12.3	10.9	14.8	13.1	24.3	66.7	45.1
	女性 (n=542)	55.0	14.0	7.9	15.3	13.8	22.5	72.7	50.4
	その他 (n=4)	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	75.0	25.0
年代別	10歳代 (n=12)	75.0	50.0	50.0	58.3	50.0	58.3	91.7	83.3
	20歳代 (n=79)	68.4	12.7	7.6	13.9	19.0	22.8	82.3	48.1
	30歳代 (n=119)	65.5	13.4	10.9	16.8	26.1	31.1	84.9	55.5
	40歳代 (n=147)	52.4	15.0	12.2	15.6	24.5	23.8	76.9	49.0
	50歳代 (n=168)	59.5	11.9	9.5	15.5	7.1	19.0	72.0	49.4
	60歳代 (n=143)	47.6	8.4	2.8	7.0	7.0	20.3	63.6	46.2
	70歳代 (n=134)	37.3	7.5	3.7	9.7	3.7	16.4	53.7	36.6
	80歳以上 (n=113)	46.9	23.0	14.2	25.7	7.1	28.3	59.3	48.7
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	55.9	18.1	14.2	16.5	18.9	24.4	78.0	57.5
	若葉・調和 (n=120)	54.2	14.2	10.0	14.2	10.0	17.5	63.3	45.0
	上ノ原・柏野 (n=82)	39.0	14.6	9.8	14.6	7.3	19.5	65.9	45.1
	北ノ台・深大寺 (n=72)	54.2	13.9	8.3	13.9	8.3	23.6	76.4	47.2
	第二・八雲台・国領 (n=130)	50.8	13.1	6.9	14.6	11.5	19.2	67.7	49.2
	染地・杉森・布田 (n=112)	57.1	10.7	7.1	15.2	18.8	25.0	67.0	47.3
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	58.5	14.1	12.7	16.2	17.6	31.7	71.1	44.4
	第三・石原・飛田給 (n=130)	53.8	8.5	4.6	16.2	11.5	23.1	72.3	47.7

②手助けできるか

- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、[ア 安否確認の声かけ (73.3%)] が最も多く、[キ 災害時避難の手助け (72.6%)], [ク 具合がよくない時に病院などに連絡する (66.5%)] が続いている。



－ 回答者属性分析 －

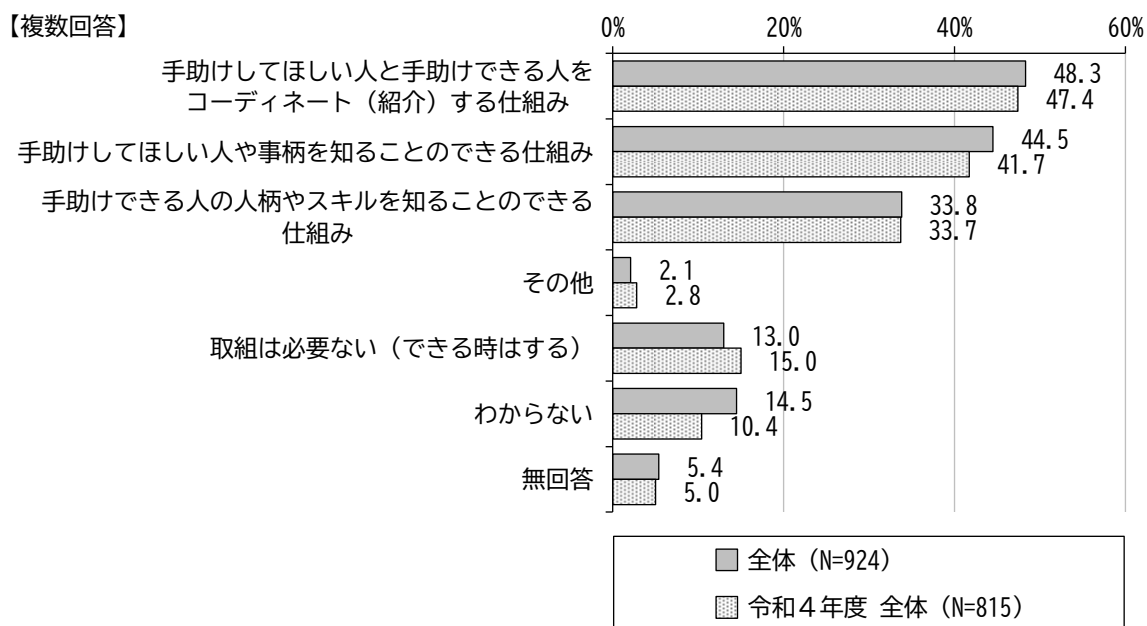
- 手助けを「できる・してもいい」の割合を性別にみると、男性で〔キ 災害時避難の手助け〕、女性で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、30 歳代、60 歳代、70 歳代で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多く、80 歳以上では〔ク 具合がよくない時に病院などに連絡する〕が最も多くなっている。それ以外の年代で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、緑が丘・滝坂小学校地域で〔キ 災害時避難の手助け〕が最も多く、若葉・調和地域、北ノ台・深大寺小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で〔ア 安否確認の声かけ〕と〔キ 災害時避難の手助け〕が同率となっている。それ以外の地域で〔ア 安否確認の声かけ〕が最も多くなっている。

<「できる・してもいい」の割合>

単位：％		ア 安 否 確 認 の 声 か け	イ ち よ つ と し た 買 い 物	ウ 食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手	エ 通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手	オ 子 ど も の 預 か り	カ 話 し 相 手 や 相 談 相 手	キ 災 害 時 避 難 の 手 助 け	ク 病 院 な ど に よ く 連 絡 す る に 具 合 が よ く な い 時 に
全体 (N=924)		73.3	49.4	25.6	27.2	23.6	47.7	72.6	66.5
性別	男性 (n=366)	71.9	47.0	27.3	31.7	23.2	45.4	75.4	64.2
	女性 (n=542)	75.1	51.5	24.9	24.7	24.5	50.0	71.4	68.5
	その他 (n=4)	100.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	100.0	75.0
年代別	10歳代 (n=12)	75.0	83.3	58.3	58.3	41.7	66.7	91.7	83.3
	20歳代 (n=79)	79.7	45.6	22.8	20.3	27.8	44.3	82.3	69.6
	30歳代 (n=119)	85.7	48.7	29.4	26.9	39.5	58.0	84.9	72.3
	40歳代 (n=147)	75.5	49.7	27.9	29.3	29.3	46.3	81.6	68.7
	50歳代 (n=168)	82.1	56.0	32.1	33.9	23.2	52.4	83.9	76.8
	60歳代 (n=143)	78.3	58.7	23.8	27.3	24.5	49.7	78.3	72.7
	70歳代 (n=134)	67.9	45.5	20.1	24.6	12.7	45.5	55.2	56.7
	80歳以上 (n=113)	42.5	32.7	17.7	20.4	8.8	34.5	38.9	43.4
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	74.0	47.2	28.3	26.0	27.6	48.0	75.6	65.4
	若葉・調和 (n=120)	68.3	43.3	17.5	20.8	15.0	40.8	68.3	61.7
	上ノ原・柏野 (n=82)	73.2	54.9	28.0	26.8	19.5	46.3	72.0	70.7
	北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	58.3	26.4	29.2	27.8	58.3	80.6	75.0
	第二・八雲台・国領 (n=130)	69.2	49.2	24.6	28.5	24.6	43.8	66.2	65.4
	染地・杉森・布田 (n=112)	75.0	45.5	24.1	29.5	26.8	49.1	71.4	68.8
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	75.4	54.9	30.3	30.3	23.2	53.5	75.4	65.5
	第三・石原・飛田給 (n=130)	76.9	47.7	27.7	28.5	26.2	46.9	76.9	66.2

問 13 家族以外のまわりの人に、問 12 ア～クのような手伝いや手助けをする（してもらう）にあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

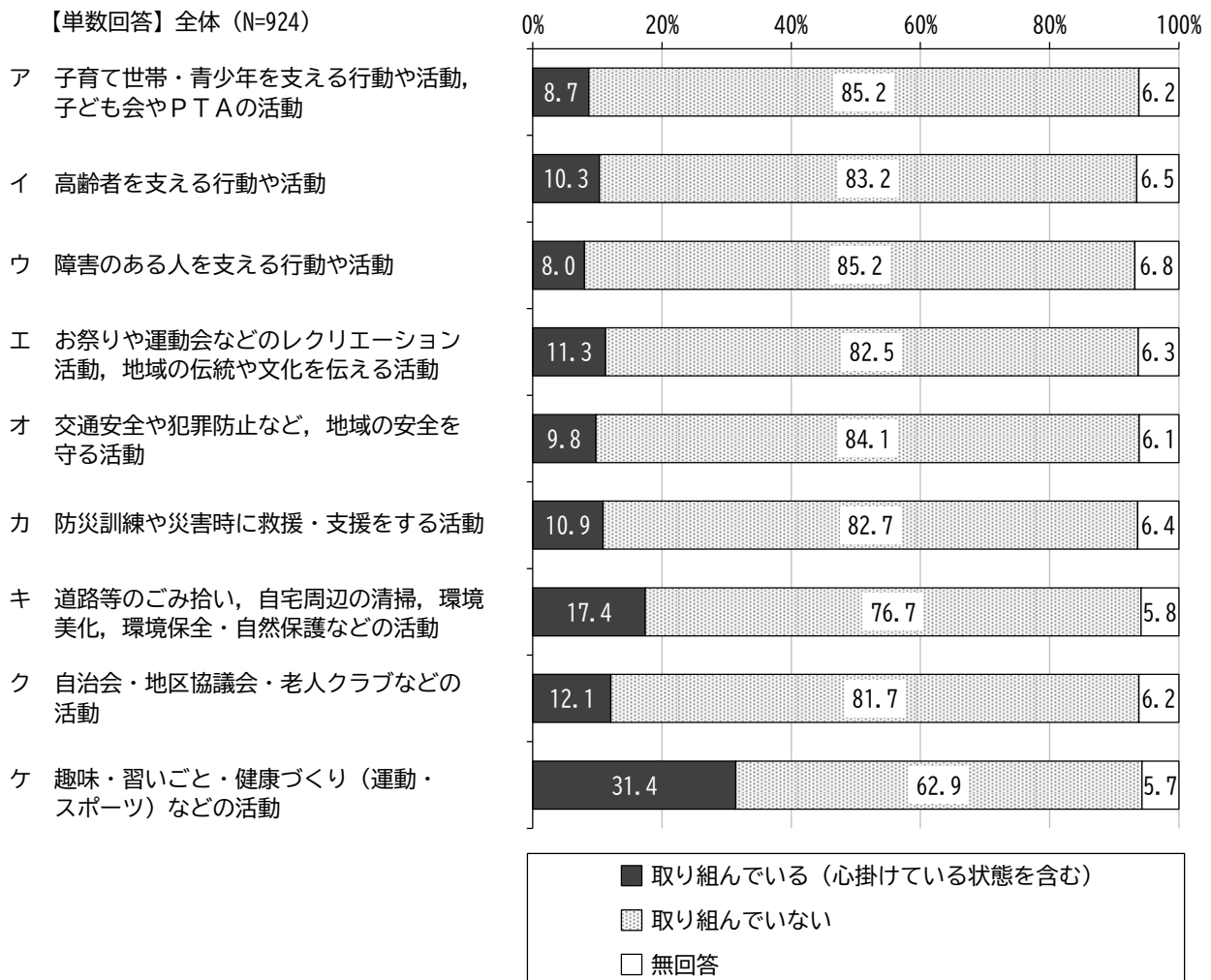
- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもらう）ために必要な取組は、「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み（48.3%）」が最も多く、「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み（44.5%）」、「手助けできる人の人柄やスキルを知ることのできる仕組み（33.8%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



問 14 あなたは地域での活動に参加したり、地域のために日頃から心掛けていることはありますか。①現在の状況、②今後の意向をお答えください。（それぞれ1つに○）

①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況について、すべての活動で「取り組んでいない」が多くなっている。
- 「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（31.4%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動（17.4%）]、[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（12.1%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

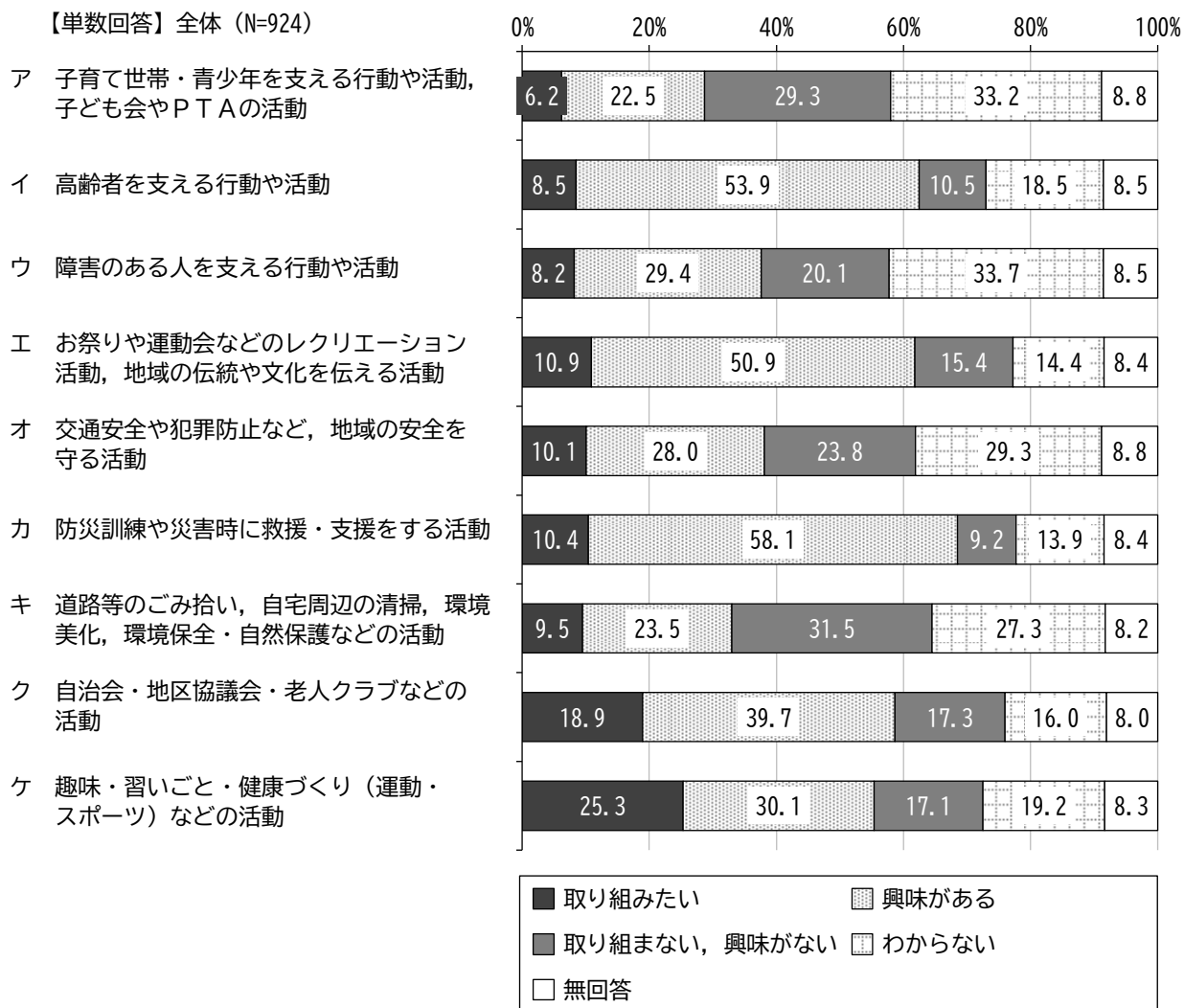
- 地域での活動等の取組状況について、「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合を性別にみると、男性、女性ともに〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕が最も多くなっている。

<「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合>

単位：％		ア P T A の 活 動 、 青 少 年 を 支 え る 行 動 や 活 動	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 的 な 文 化 を 伝 え る 活 動 、 地 域 の ク	オ 地 交 通 の 安 全 を 犯 罪 防 止 な ど 、	カ 支 援 を 訓 練 す る 活 動 、 災 害 時 に 救 援 ・	キ 保 全 ・ 清 掃 、 自 然 環 境 の 美 し く 保 護 す る 活 動 、 自 宅 周 辺 の ご み 拾 い 、 自 宅 内 の 整 頓 な ど	ク 自 治 会 な ど の 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 （ 運 動 ・ 習 い ご と ・ 健 康 づ く り な ど
全体（N=924）		8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
性 別	男性（n=366）	7.4	8.2	8.7	11.5	8.5	11.2	19.1	11.5	27.3
	女性（n=542）	9.8	12.0	7.7	11.3	10.9	10.7	16.4	12.7	34.1
	その他（n=4）	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	100.0
年 代 別	10歳代（n=12）	8.3	33.3	33.3	25.0	33.3	25.0	25.0	8.3	58.3
	20歳代（n=79）	2.5	0.0	1.3	10.1	5.1	5.1	8.9	3.8	22.8
	30歳代（n=119）	12.6	5.0	5.9	12.6	9.2	7.6	11.8	5.9	27.7
	40歳代（n=147）	19.7	8.8	4.8	11.6	8.2	6.8	11.6	6.8	29.9
	50歳代（n=168）	8.3	13.1	11.3	11.9	11.3	13.7	14.9	13.7	29.2
	60歳代（n=143）	6.3	11.2	11.2	11.2	11.2	12.6	22.4	15.4	30.1
	70歳代（n=134）	3.7	14.2	11.2	11.9	10.4	13.4	26.1	17.2	39.6
	80歳以上（n=113）	4.4	13.3	4.4	7.1	9.7	13.3	23.9	20.4	38.1
福 祉 圏 域 別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	5.5	8.7	5.5	7.1	8.7	6.3	14.2	7.9	26.0
	若葉・調和（n=120）	11.7	12.5	6.7	10.0	11.7	14.2	23.3	16.7	31.7
	上ノ原・柏野（n=82）	4.9	8.5	12.2	6.1	7.3	4.9	15.9	6.1	29.3
	北ノ台・深大寺（n=72）	6.9	13.9	9.7	18.1	13.9	8.3	22.2	18.1	43.1
	第二・八雲台・国領（n=130）	8.5	9.2	7.7	12.3	10.0	12.3	17.7	10.0	29.2
	染地・杉森・布田（n=112）	7.1	7.1	7.1	12.5	8.0	12.5	17.0	11.6	41.1
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	13.4	13.4	9.2	11.3	10.6	13.4	12.7	13.4	31.0
	第三・石原・飛田給（n=130）	9.2	10.0	8.5	14.6	10.0	13.1	20.0	14.6	26.9

②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（68.5%）]が最も多く、[イ 高齢者を支える行動や活動（62.4%）]，[エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動（61.8%）]が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合を性別にみると、男性、女性ともに〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。
- 年代別にみると、10歳代、20歳代で〔エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動〕、80歳以上で〔ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動〕、それ以外の年代で〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で〔カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動〕が最も多くなっている。

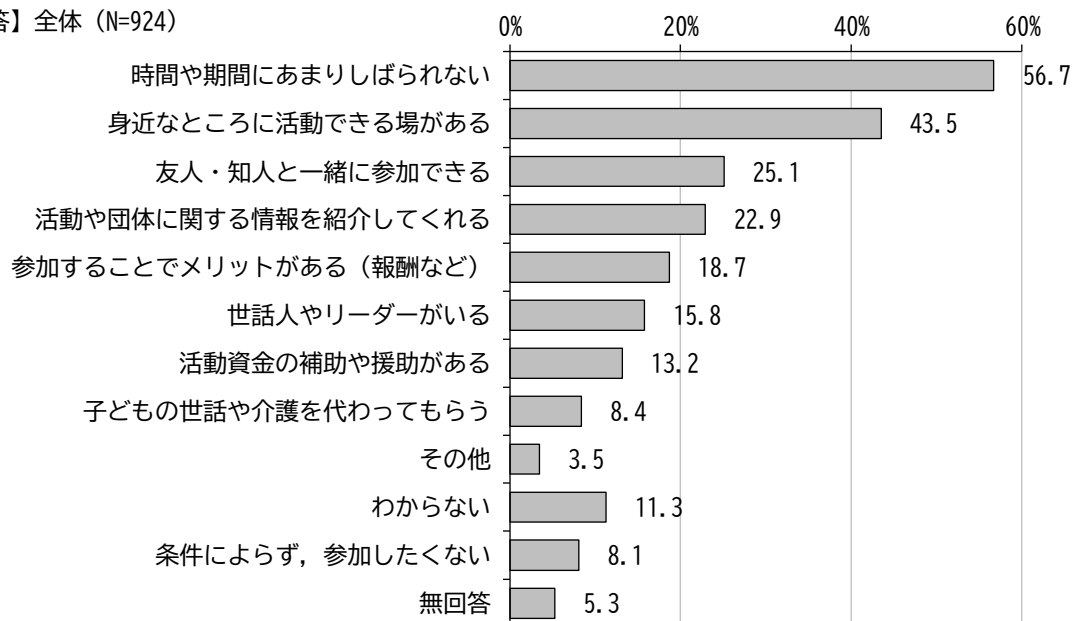
<「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合>

単位：％		ア P T A の 活 動 、 青 少 年 を 支 え や え	イ 高 齢 者 を 支 え る 行 動 や 活 動	ウ や 障 害 の あ る 人 を 支 え る 行 動	エ 伝 統 や 文 化 を 伝 え る 活 動 、 地 域 の ク	オ 地 交 通 の 安 全 を 犯 罪 防 止 な ど 、	カ 支 援 を 訓 練 や 災 害 時 に 救 援 ・	キ 保 全 ・ 自 然 、 保 護 な 美 し い 、 自 然 環 境 周	ク 自 治 体 な 地 区 協 議 会 ・ 老 人	ケ の 活 動 （ レ クリ エ ー シ ョ ン 活 動 、 習 い ご と ・ 健 康 づ く り ）
全体（N=924）		28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
性別	男性（n=366）	30.6	64.7	39.6	67.0	40.2	71.0	29.8	63.4	51.9
	女性（n=542）	28.3	61.8	37.5	59.8	37.6	67.9	35.4	56.7	58.1
	その他（n=4）	0.0	75.0	0.0	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	100.0
年代別	10歳代（n=12）	41.7	83.4	41.6	100.0	50.0	91.7	25.0	83.3	66.7
	20歳代（n=79）	26.6	79.8	27.9	82.2	26.6	79.7	21.6	74.7	53.2
	30歳代（n=119）	40.4	81.5	49.6	84.1	43.7	86.6	21.9	79.8	63.0
	40歳代（n=147）	37.4	75.5	44.9	74.8	42.1	79.6	24.5	69.4	57.8
	50歳代（n=168）	32.8	73.2	42.8	70.2	45.2	79.2	34.5	65.4	58.3
	60歳代（n=143）	30.1	60.9	44.1	59.5	46.9	71.3	51.1	57.4	65.1
	70歳代（n=134）	20.1	41.8	32.9	38.8	32.1	51.5	42.6	38.8	47.8
	80歳以上（n=113）	9.7	24.8	15.0	25.6	22.1	29.2	29.2	28.3	39.9
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	33.0	66.9	43.3	63.0	40.2	75.6	28.4	65.4	63.0
	若葉・調和（n=120）	23.3	62.5	35.0	55.8	34.2	64.2	32.5	55.0	46.7
	上ノ原・柏野（n=82）	23.2	61.0	36.6	60.9	32.9	65.9	31.7	56.1	53.7
	北ノ台・深大寺（n=72）	36.1	61.2	33.3	63.9	44.4	66.7	37.5	61.1	65.3
	第二・八雲台・国領（n=130）	26.1	54.6	35.4	59.3	40.0	64.6	33.8	50.0	53.8
	染地・杉森・布田（n=112）	29.5	63.4	37.5	66.1	35.7	67.9	34.8	62.5	59.8
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	30.3	71.9	43.7	70.5	39.4	76.8	30.3	65.5	55.7
	第三・石原・飛田給（n=130）	30.8	60.0	36.1	59.3	40.8	66.9	37.7	57.7	51.5

問 15 どのような条件であれば，地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。（いくつでも○）

- 地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすい条件は，「時間や期間にあまりしばられない（56.7%）」が最も多く，「身近なところに活動できる場がある（43.5%）」，「友人・知人と一緒に参加できる（25.1%）」が続いている。

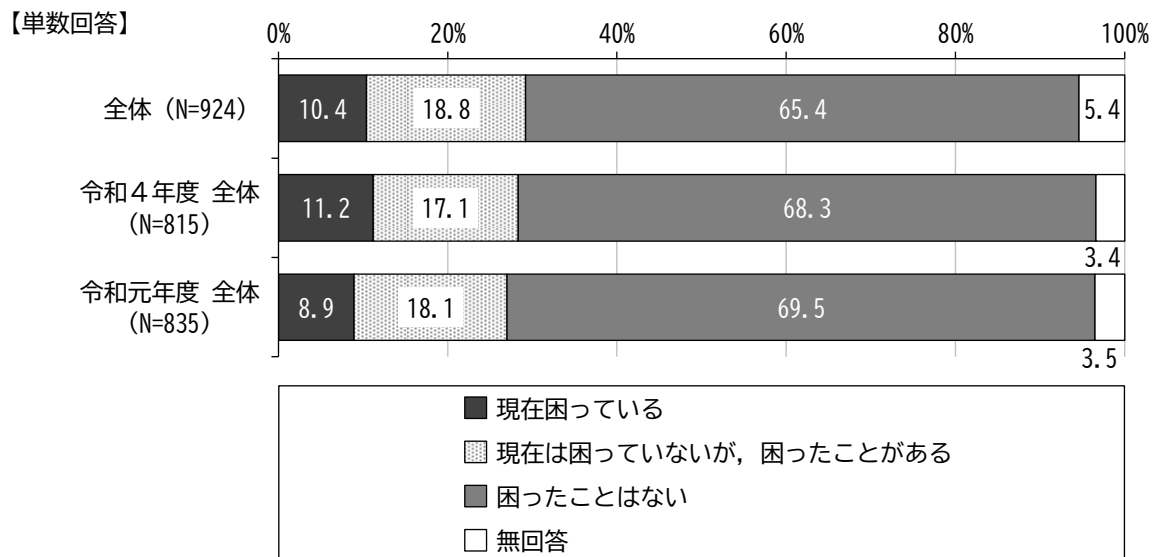
【複数回答】全体（N=924）



4 暮らしのことについておたずねします

問 16 これまでに経済的に困った経験がありますか。(1つに○)

- 経済的に困った経験は、「困ったことはない(65.4%)」が最も多く、「現在は困っていないが、困ったことがある(18.8%)」、「現在困っている(10.4%)」が続いている。
- 「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」を合わせた『困ったことがある』は29.2%となっている。
- 令和元年度、令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



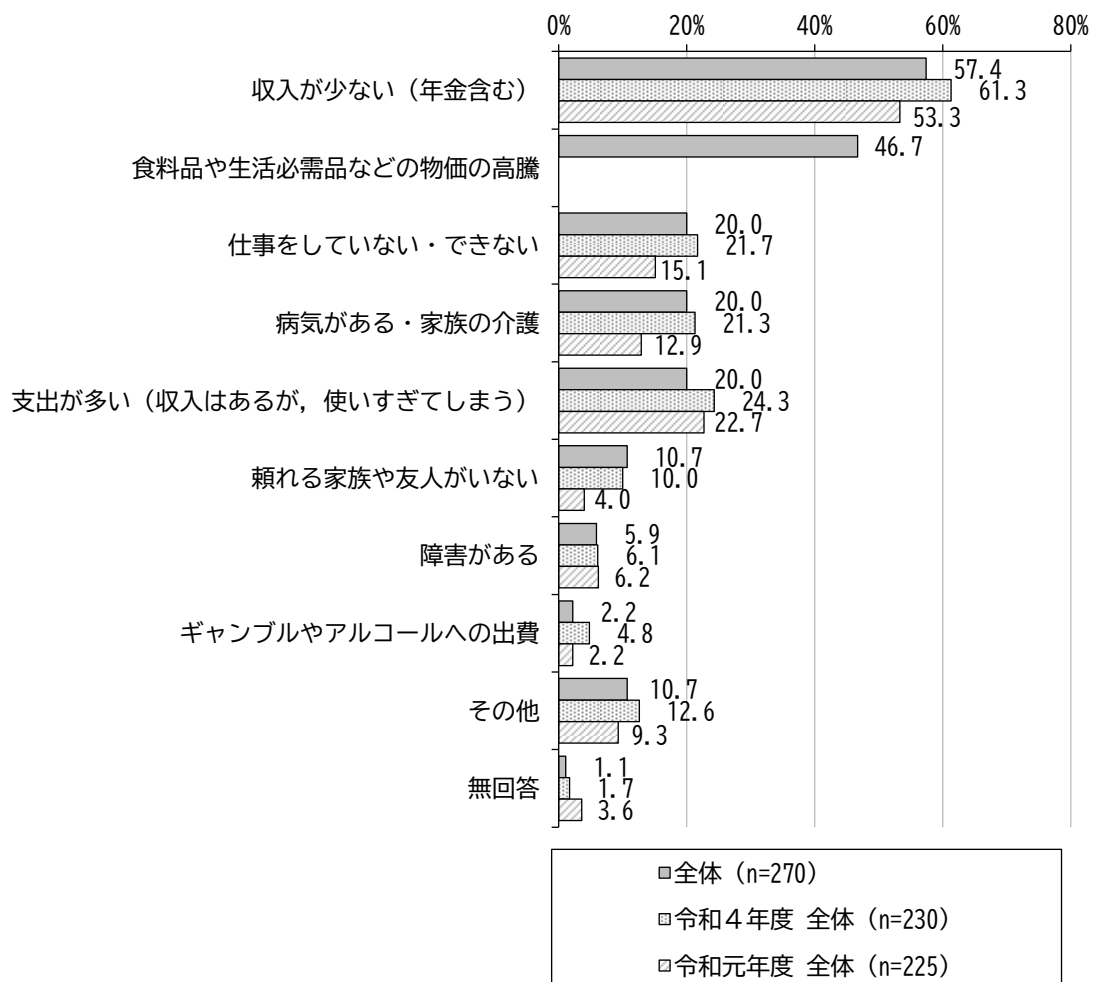
－ 回答者属性分析 －

- 経済的に困った経験を年代別にみると、すべての年代で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、20歳代、40歳代、50歳代、80歳以上で『困ったことがある』が3割を超えている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、北ノ台・深大寺小学校地域、第二・八雲台・国領小学校地域、第一・富士見台・多摩川小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で『困ったことがある』が3割を超えている。
- 住居形態別にみると、公営住宅（市営・都営住宅等）で「現在は困っていないが、困ったことがある」と「困ったことはない」が同率となっている。それ以外の区分で「困ったことはない」が最も多くなっている。また、民間賃貸（一戸建て）、民間賃貸（集合住宅）、公営住宅（市営・都営住宅等）で『困ったことがある』が4割を超えている。

単位：％		現在困っている	が現在、困ったことはない	困ったことはない	無回答	『困ったことがある』	【困ったことはない 「再掲」】
全体（N=924）		10.4	18.8	65.4	5.4	29.2	65.4
年代別	10歳代（n=12）	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	20歳代（n=79）	15.2	16.5	67.1	1.3	31.7	67.1
	30歳代（n=119）	10.9	16.8	71.4	0.8	27.7	71.4
	40歳代（n=147）	16.3	19.0	63.9	0.7	35.3	63.9
	50歳代（n=168）	11.9	25.6	61.9	0.6	37.5	61.9
	60歳代（n=143）	6.3	18.2	68.5	7.0	24.5	68.5
	70歳代（n=134）	4.5	14.2	71.6	9.7	18.7	71.6
	80歳以上（n=113）	9.7	22.1	52.2	15.9	31.8	52.2
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	11.0	17.3	66.9	4.7	28.3	66.9
	若葉・調和（n=120）	10.8	13.3	73.3	2.5	24.1	73.3
	上ノ原・柏野（n=82）	6.1	11.0	74.4	8.5	17.1	74.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	12.5	20.8	59.7	6.9	33.3	59.7
	第二・八雲台・国領（n=130）	7.7	30.8	53.8	7.7	38.5	53.8
	染地・杉森・布田（n=112）	12.5	14.3	69.6	3.6	26.8	69.6
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	13.4	18.3	65.5	2.8	31.7	65.5
	第三・石原・飛田給（n=130）	8.5	22.3	63.8	5.4	30.8	63.8
住居形態別	持ち家（一戸建て）（n=377）	7.4	11.7	76.9	4.0	19.1	76.9
	持ち家（集合住宅）（n=219）	6.4	20.5	66.7	6.4	26.9	66.7
	民間賃貸（一戸建て）（n=11）	18.2	27.3	45.5	9.1	45.5	45.5
	民間賃貸（集合住宅）（n=231）	18.6	26.0	52.8	2.6	44.6	52.8
	公営住宅（市営・都営住宅等）（n=42）	11.9	38.1	38.1	11.9	50.0	38.1
	社宅・公務員住宅等（n=10）	10.0	10.0	80.0	0.0	20.0	80.0
	上記以外（n=15）	6.7	20.0	66.7	6.7	26.7	66.7

付問 問 16 で「1～2（困っている、困ったことがある）」と答えた人におたずねします。
困っている（困った）原因は何ですか。（いくつでも○）

- 困っている（困った）原因は、「収入が少ない（年金含む）（57.4%）」が最も多く、「食料品や生活必需品などの物価の高騰（46.7%）」、「仕事をしていない・できない（20.0%）」「病気がある・家族の介護（20.0%）」「支出が多い（収入はあるが、使いすぎてしまう）（20.0%）」が続いている。
- 令和元年度から令和4年度にかけては、「収入が少ない（年金含む）」、「仕事をしていない・できない」、「病気がある・家族の介護」、「頼れる家族や友人がいない」の項目が高くなっているが、令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



※「食料品や生活必需品などの物価の高騰」は今回調査のみの選択肢

※令和元年度は「特にない」（8.4%）の選択肢あり

－ 回答者属性分析 －

- 困っている（困った）原因の割合を年代別にみると、すべての年代で「収入が少ない（年金含む）」が最も多くなっている。また、20 歳代で「支出が多い（収入はあるが、使いすぎてしまう）」が3割を超えているほか、50 歳代以上で「病気がある・家族の介護」が2割を超えている。

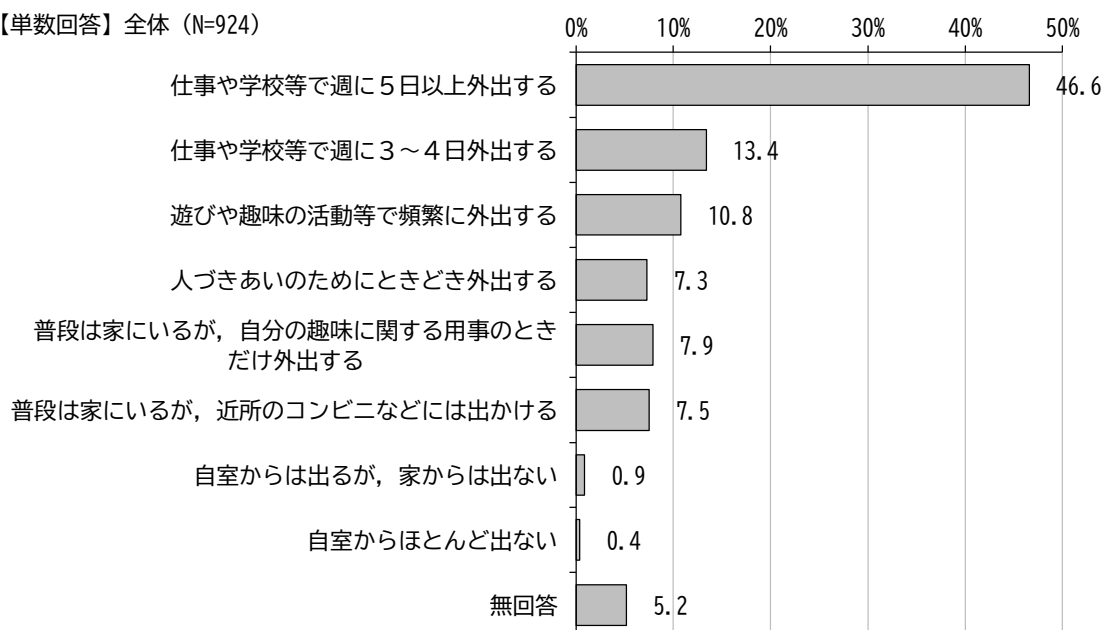
単位：％		仕事を していない・ できない	収入が 少ない（年 金含む）	頼 れる家族 や友人が いない	病 気がある ・家族の 介護	障 害があ る	支 出が多 い（収 入はあ るが、 使い すぎ てし ま う）	ギ ャ ン ブ ル や ア ル コ ー ル へ の 出 費	食 料 品 や 生 活 必 需 品 な ど の 物 価 の 高 騰	そ の 他	無 回 答
全体（n=270）		20.0	57.4	10.7	20.0	5.9	20.0	2.2	46.7	10.7	1.1
年 代 別	20歳代（n=25）	24.0	68.0	4.0	4.0	0.0	36.0	0.0	44.0	8.0	0.0
	30歳代（n=33）	18.2	63.6	3.0	15.2	12.1	24.2	3.0	54.5	12.1	0.0
	40歳代（n=52）	19.2	59.6	21.2	13.5	5.8	17.3	3.8	55.8	13.5	0.0
	50歳代（n=63）	22.2	46.0	12.7	25.4	4.8	28.6	1.6	36.5	11.1	1.6
	60歳代（n=35）	8.6	51.4	8.6	25.7	5.7	14.3	2.9	40.0	14.3	0.0
	70歳代（n=25）	24.0	68.0	12.0	24.0	0.0	8.0	4.0	52.0	4.0	4.0
	80歳以上（n=36）	25.0	58.3	5.6	27.8	11.1	8.3	0.0	50.0	8.3	2.8

※10 歳代は n=0 のため省略

問 17 あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
（1つに○）

- 外出の状況は、「仕事や学校等で週に5日以上外出する（46.6%）」が最も多く、「仕事や学校等で週に3～4日外出する（13.4%）」、「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する（10.8%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）



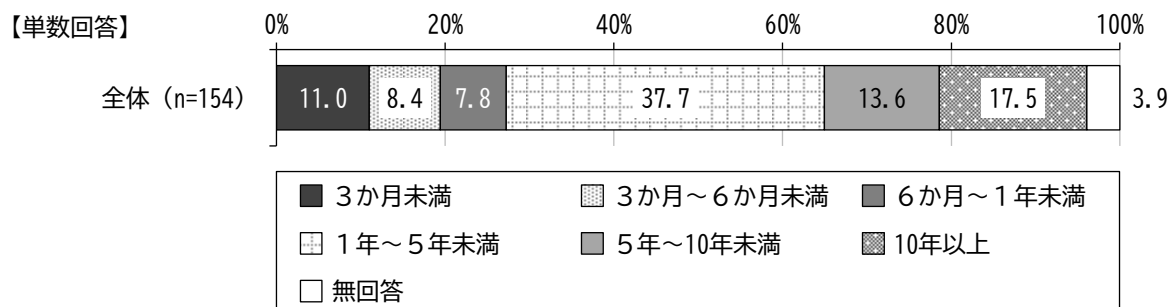
－ 回答者属性分析 －

- 外出の状況の割合を年代別にみると、70 歳代で「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」、80 歳以上で「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も多くなっている。それ以外の年代で「仕事や学校等で週に 5 日以上外出する」が最も多くなっている。

単位：％		仕事や学校等で週に 5 日以上外出する	仕事や学校等で週に 3～4 日外出する	遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する	人どき外出するためにとき外あいのためにと	普段は家にいるが、用、事自	普段は家にいるが、近	から家には出ないが、家	自室からほとんど出ない	無回答
全体 (N=924)		46.6	13.4	10.8	7.3	7.9	7.5	0.9	0.4	5.2
年代別	10歳代 (n=12)	83.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代 (n=79)	74.7	12.7	1.3	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=119)	68.1	14.3	4.2	4.2	2.5	5.0	0.0	0.0	1.7
	40歳代 (n=147)	66.0	19.7	6.8	2.7	2.0	1.4	0.0	0.0	1.4
	50歳代 (n=168)	58.9	15.5	3.6	4.2	6.0	8.3	0.0	0.6	3.0
	60歳代 (n=143)	39.2	19.6	14.0	5.6	9.1	3.5	0.0	0.0	9.1
	70歳代 (n=134)	14.9	6.7	25.4	18.7	13.4	9.7	0.7	1.5	9.0
	80歳以上 (n=113)	7.1	3.5	21.2	12.4	17.7	23.0	6.2	0.9	8.0
職業別	正規の社員・職員・役員 (n=339)	76.1	12.7	2.4	2.1	2.4	2.1	0.0	0.0	2.4
	非正規の社員・職員 (n=182)	53.8	33.0	2.7	1.1	1.1	3.8	0.0	0.5	3.8
	自由業・自営業 (n=51)	60.8	13.7	7.8	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
	専業主婦・主夫 (n=117)	12.0	1.7	31.6	19.7	17.1	10.3	0.9	0.0	6.8
	学生 (n=26)	73.1	15.4	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職 (n=174)	2.3	2.3	25.3	15.5	19.0	21.8	4.0	1.1	8.6
	上記以外 (n=16)	37.5	0.0	6.3	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0	18.8

付問1 問 17 で「5～8（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、「1 年～5 年未満（37.7%）」が最も多く、「10 年以上（17.5%）」、「5 年～10 年未満（13.6%）」が続いている。

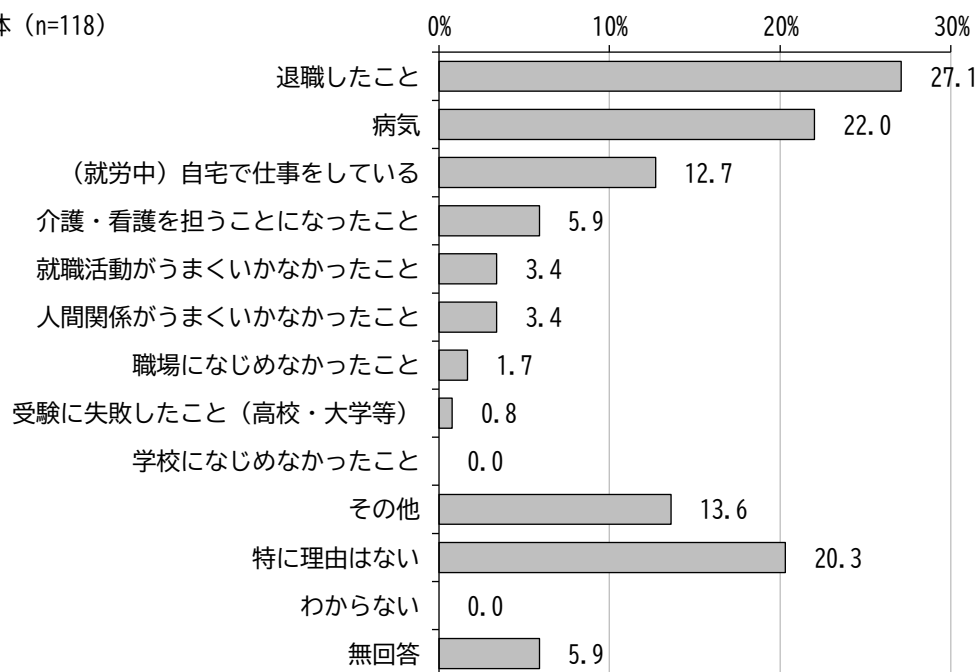


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、「退職したこと（27.1%）」が最も多く、「病気（22.0%）」、「特に理由はない（20.3%）」が続いている。

【複数回答】全体（n=118）



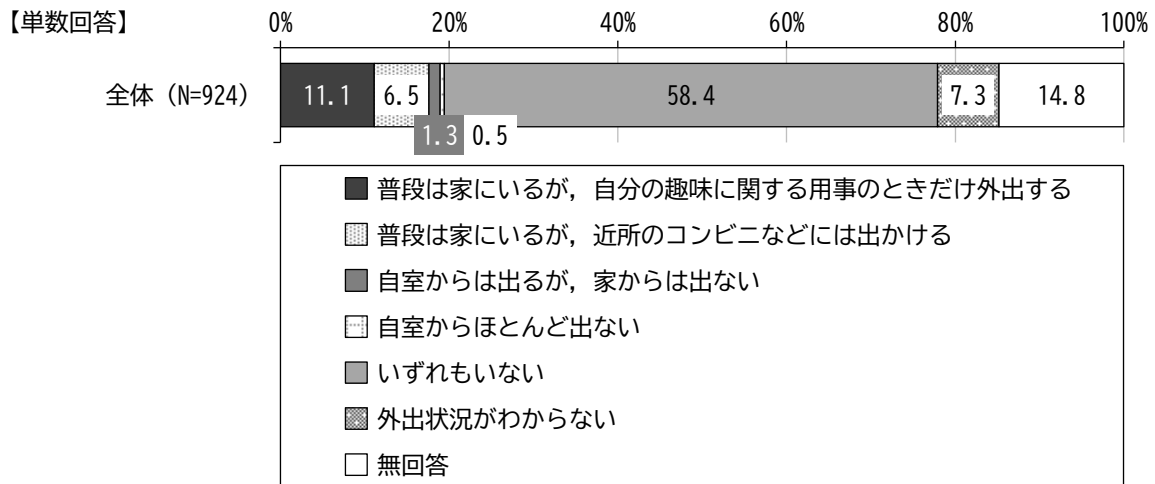
－ 回答者属性分析 －

- 外出状況が現在の状態になった主な理由の割合を年代別にみた結果は以下の表のとおりである（サンプル（n）数が少ないため、コメントは割愛）。

単位：%		病気	介護・看護を担うこと	(就労中) 自宅で仕事	学校になじめなかった	職場になじめなかった	受験に失敗したこと（高校・大学等）	就職活動がうまくいかなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
全体（n=118）		22.0	5.9	12.7	0.0	1.7	0.8	3.4	3.4	27.1	13.6	20.3	0.0	5.9
年代別	10歳代（n=1）	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代（n=5）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	30歳代（n=9）	0.0	0.0	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0
	40歳代（n=2）	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	50歳代（n=22）	31.8	4.5	27.3	0.0	4.5	0.0	9.1	9.1	13.6	18.2	9.1	0.0	0.0
	60歳代（n=15）	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.3	6.7	33.3	0.0	0.0
	70歳代（n=26）	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.3	3.8	23.1	0.0	7.7
	80歳以上（n=36）	25.0	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	19.4	25.0	0.0	11.1

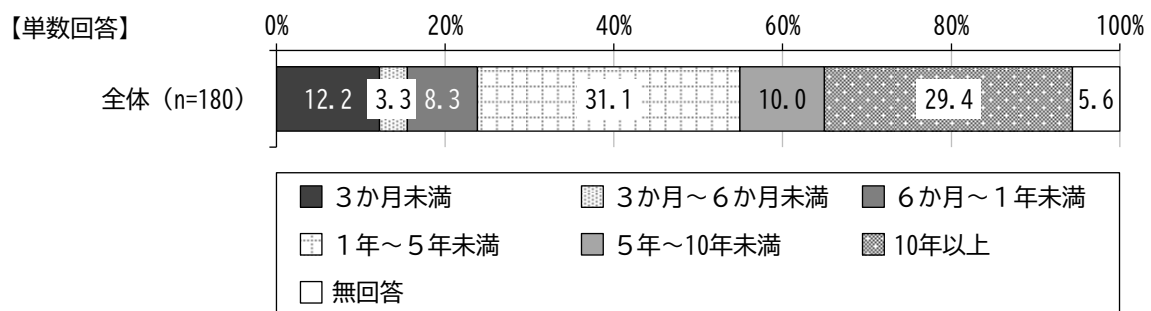
問 18 あなた以外で，市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は，「いずれもいない（58.4%）」が最も多く，「普段は家にいるが，自分の趣味に関する用事するときだけ外出する（11.1%）」，「外出状況がわからない（7.3%）」が続いている。



付問1 問18で「1～4（外出頻度が低い）」のいずれかに答えた方にうかがいます。
ご家族の外出状況が現在の状態となって，どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 家族の外出状況が現在の状態となって，どのくらい経つかは，「1年～5年未満（31.1%）」が最も多く，「10年以上（29.4%）」，「3か月未満（12.2%）」が続いている。

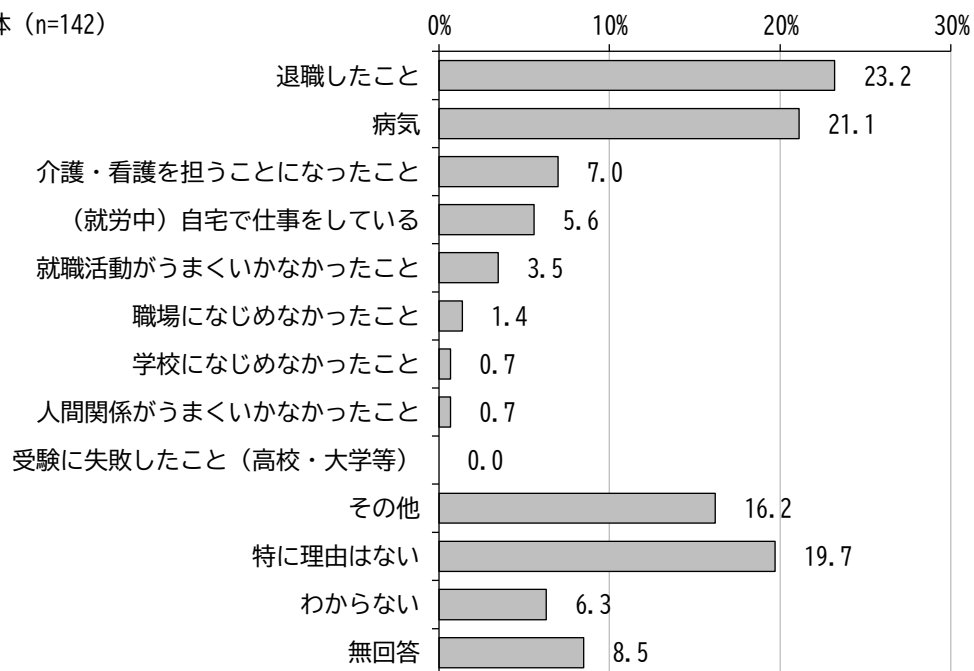


付問2 付問1で「3～6（外出状況が現在の状態となって6か月以上）」のいずれかに答えた方にうかがいます。

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも○）

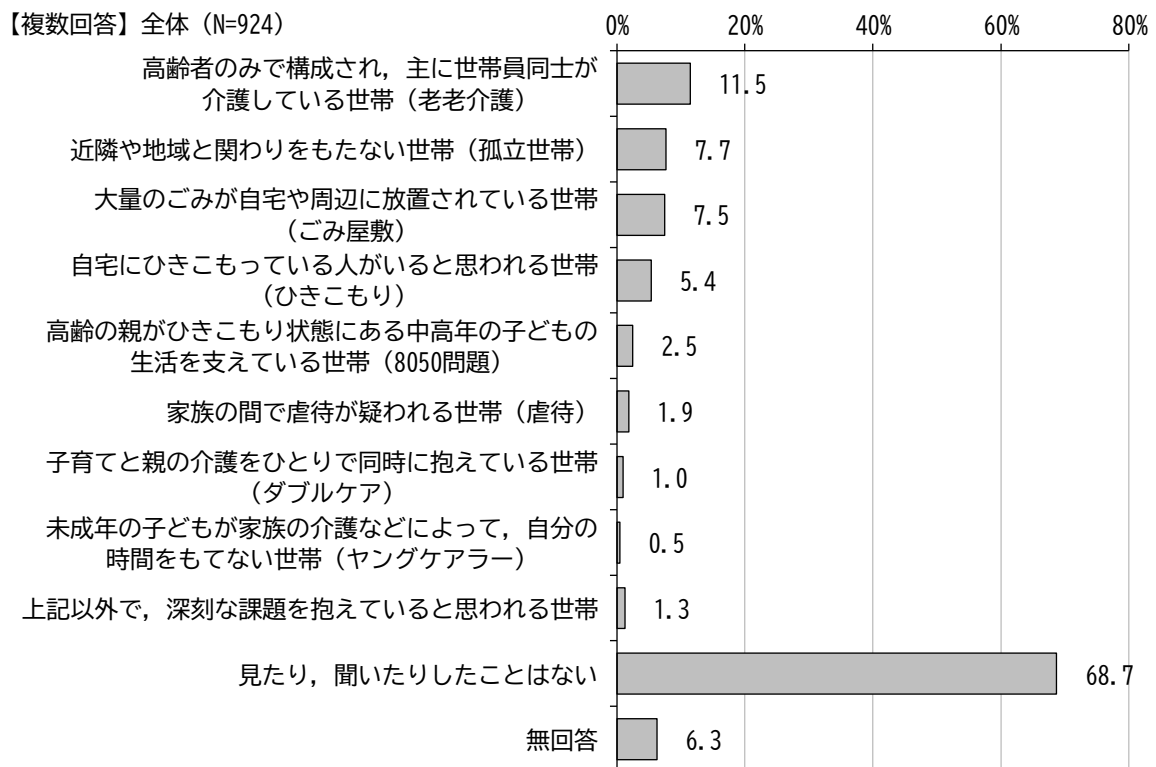
- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、「退職したこと（23.2%）」が最も多く、「病気（21.1%）」、「特に理由はない（19.7%）」が続いている。

【複数回答】全体（n=142）



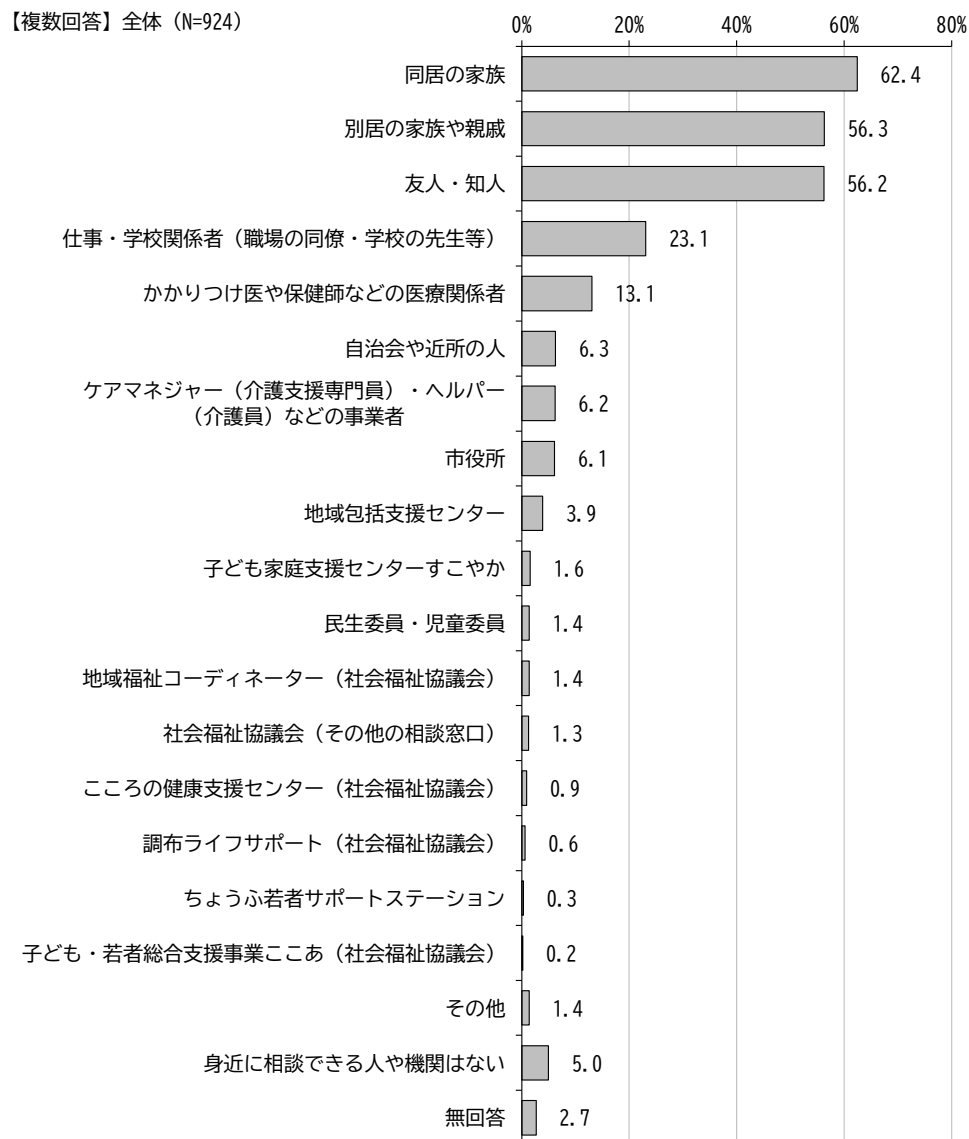
問 19 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。
(いくつでも○)

- 複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況は、「見たり、聞いたりしたことはない(68.7%)」が最も多く、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)(11.5%)」、「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)(7.7%)」が続いている。



問 20 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)は、「同居の家族(62.4%)」が最も多く、「別居の家族や親戚(56.3%)」、「友人・知人(56.2%)」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

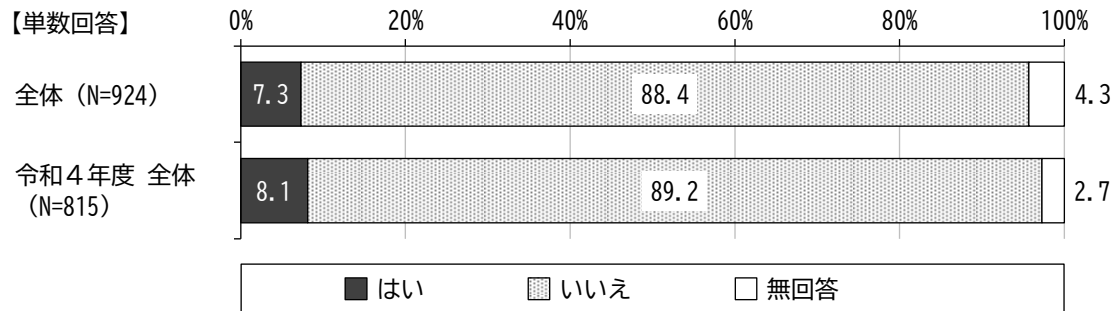
- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)の割合を性・年代別にみると、男性：30～40歳代，女性：70歳以上で「別居の家族や親戚」，女性：10～20歳代，女性：30～40歳代で「友人・知人」が最も多く，男性：10～20歳代で「同居の家族」と「友人・知人」が同率となっている。それ以外の区分で「同居の家族」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると，緑ヶ丘・滝坂小学校地域で「別居の家族や親戚」，第一・富士見台・多摩川小学校地域で「友人・知人」，それ以外の地域で「同居の家族」が最も多くなっている。
- 家族構成別にみると，ひとり暮らしで「別居の家族や親戚」，ひとり暮らし以外で「同居の家族」が最も多くなっている。

単位：％		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）	民生委員・児童委員	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパーなどの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）
全体（N=924）		62.4	56.3	6.3	56.2	23.1	1.4	6.2	13.1	6.1	1.4
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	65.8	31.6	2.6	65.8	36.8	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0
	男性：30～40歳代（n=92）	56.5	59.8	2.2	51.1	35.9	2.2	1.1	9.8	9.8	2.2
	男性：50～60歳代（n=134）	59.7	55.2	6.7	45.5	19.4	0.7	4.5	13.4	7.5	1.5
	男性：70歳以上（n=101）	52.5	42.6	11.9	36.6	3.0	5.0	15.8	25.7	5.9	3.0
	女性：10～20歳代（n=53）	66.0	39.6	1.9	71.7	34.0	0.0	0.0	9.4	5.7	0.0
	女性：30～40歳代（n=173）	75.1	67.6	6.4	75.7	38.7	0.6	1.7	10.4	4.6	0.0
	女性：50～60歳代（n=175）	69.1	61.1	8.0	65.7	27.4	0.6	6.9	10.3	6.9	0.0
	女性：70歳以上（n=141）	53.2	59.6	5.7	42.6	1.4	0.7	12.1	17.0	4.3	3.5
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	58.3	60.6	0.0	55.1	22.0	0.0	6.3	11.0	7.9	1.6
	若葉・調和（n=120）	70.0	57.5	6.7	55.0	24.2	0.8	7.5	14.2	4.2	1.7
	上ノ原・柏野（n=82）	72.0	54.9	1.2	50.0	25.6	1.2	4.9	12.2	2.4	1.2
	北ノ台・深大寺（n=72）	65.3	52.8	12.5	56.9	16.7	1.4	4.2	13.9	5.6	1.4
	第二・八雲台・国領（n=130）	52.3	50.8	7.7	51.5	22.3	1.5	6.2	14.6	6.9	1.5
	染地・杉森・布田（n=112）	64.3	52.7	10.7	60.7	18.8	2.7	8.0	14.3	4.5	1.8
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	60.6	57.0	7.0	63.4	26.1	2.1	4.9	13.4	7.0	1.4
	第三・石原・飛田給（n=130）	64.6	61.5	6.2	56.9	26.9	1.5	6.2	11.5	7.7	0.0
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	1.2	59.0	2.4	49.4	20.5	1.2	6.6	10.8	4.2	2.4
	ひとり暮らし以外（n=740）	76.4	56.2	6.8	58.1	24.2	1.5	5.9	13.6	6.6	1.2

単位：％		（調布ライフサポート（社会福祉協議会）	子ども・若者総合支援事業（社会福祉協議会）	このころの健康支援センター（社会福祉協議会）	社会福祉協議会（その他の相談窓口）	地域包括支援センター	スチーフン若者サポート	子ども家庭支援センター（すこやか）	その他	身近に相談できる人や機関はない	無回答
全体（N=924）		0.6	0.2	0.9	1.3	3.9	0.3	1.6	1.4	5.0	2.7
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	7.9	0.0
	男性：30～40歳代（n=92）	1.1	0.0	0.0	1.1	1.1	1.1	1.1	0.0	8.7	1.1
	男性：50～60歳代（n=134）	1.5	0.0	1.5	0.0	2.2	0.0	0.7	0.7	8.2	0.7
	男性：70歳以上（n=101）	1.0	1.0	2.0	4.0	8.9	1.0	1.0	1.0	8.9	5.9
	女性：10～20歳代（n=53）	1.9	1.9	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0
	女性：30～40歳代（n=173）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	5.8	2.3	0.0	0.6
	女性：50～60歳代（n=175）	0.0	0.0	1.7	0.6	5.1	0.0	1.1	0.6	6.3	0.6
	女性：70歳以上（n=141）	0.7	0.0	0.0	2.1	7.8	0.0	0.0	2.1	2.1	7.1
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	0.8	0.0	0.0	0.8	3.1	0.0	0.8	0.0	3.9	3.1
	若葉・調和（n=120）	0.8	0.0	1.7	1.7	3.3	0.0	1.7	1.7	5.8	0.8
	上ノ原・柏野（n=82）	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	2.4	3.7	2.4
	北ノ台・深大寺（n=72）	1.4	0.0	0.0	2.8	8.3	0.0	0.0	1.4	8.3	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	0.8	0.0	0.8	1.5	3.1	0.0	0.8	1.5	5.4	4.6
	染地・杉森・布田（n=112）	0.9	0.9	3.6	1.8	4.5	0.9	2.7	0.9	5.4	0.9
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	0.7	0.7	0.7	0.7	4.9	0.7	3.5	1.4	4.2	2.1
	第三・石原・飛田給（n=130）	0.0	0.0	0.0	0.8	3.1	0.8	1.5	1.5	4.6	2.3
家族構成別	ひとり暮らし（n=166）	0.0	0.0	0.6	1.8	4.8	0.6	0.0	1.2	8.4	4.8
	ひとり暮らし以外（n=740）	0.8	0.3	0.9	1.2	3.8	0.3	2.0	1.4	4.3	1.8

問 21 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

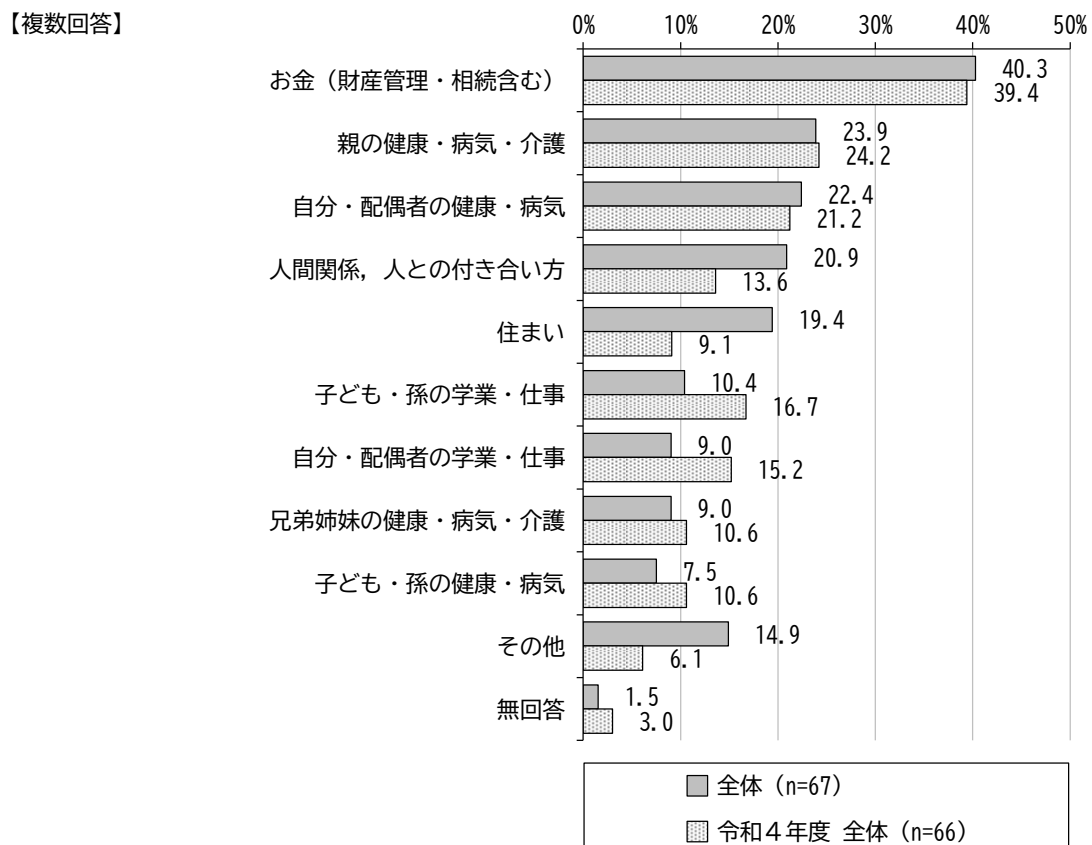
- どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかは、「はい (7.3%)」、「いいえ (88.4%)」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



付問 問 21 で「1 はい」と答えた方におたずねします。

差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

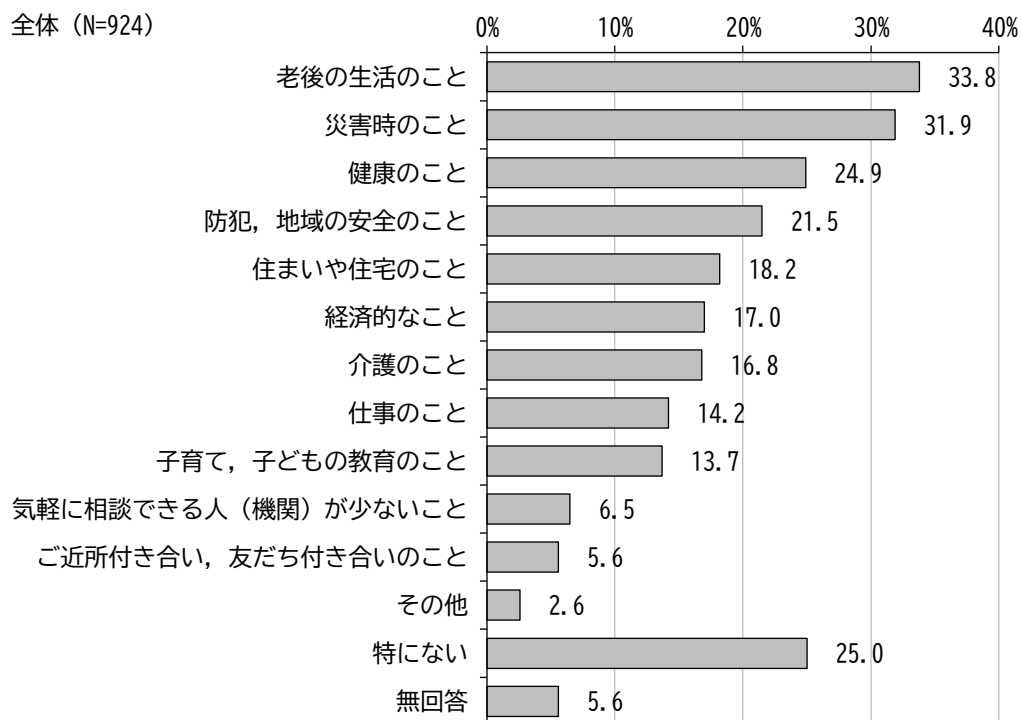
- 相談先がわからない生活上の困りごとの内容は、「お金(財産管理・相続含む) (40.3%)」が最も多く、「親の健康・病気・介護 (23.9%)」、「自分・配偶者の健康・病気 (22.4%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「住まい」が10.3ポイント、「人間関係、人との付き合い方」が7.3ポイント高く、「子ども・孫の学業・仕事」が6.3ポイント、「自分・配偶者の学業・仕事」が6.2ポイント低くなっている。



問 22 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- 地域の中で不安や課題と感じていることは、「老後の生活のこと（33.8%）」が最も多く、「災害時のこと（31.9%）」、「特にない（25.0%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=924）



－ 回答者属性分析 －

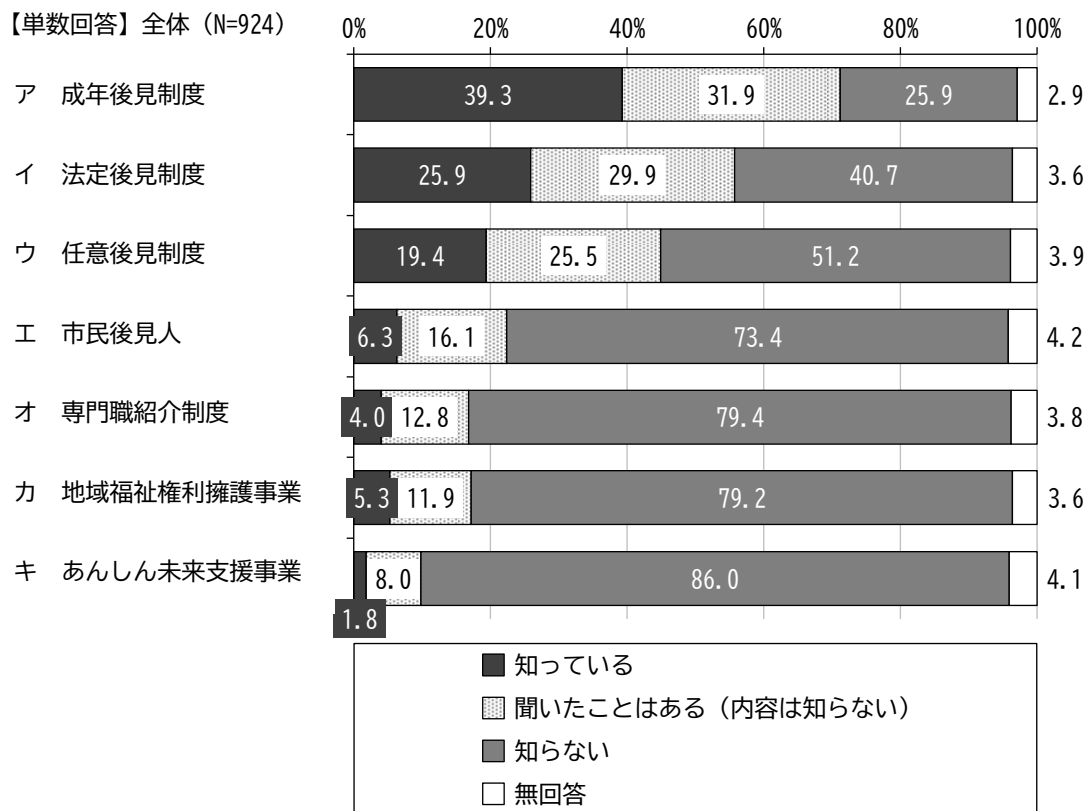
- 地域の中で不安や課題と感じていることの割合を性・年代別にみると、「特にない」を除くと、男性は、10～20歳代で「経済的なこと」、30～40歳代、50～60歳代で「老後の生活のこと」が最も多く、70歳以上で「防犯、地域の安全のこと」と「災害時のこと」が同率となっている。女性は、10～20歳代、30～40歳代で「災害時のこと」、50～60歳代、70歳以上で「老後の生活のこと」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、北ノ台・深大寺小学校地域、第二・八雲台・国領小学校地域、第三・石原・飛田給小学校地域で「災害時のこと」、それ以外の地域で「老後の生活のこと」が最も多くなっている。

単位：％		子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	ご近所付き合い、友だち	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機会）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）		13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
性・年代別	男性：10～20歳代（n=38）	13.2	18.4	2.6	10.5	10.5	18.4	21.1	7.9	7.9	13.2	5.3	2.6	36.8	5.3
	男性：30～40歳代（n=92）	31.5	26.1	14.1	33.7	27.2	25.0	26.1	13.0	23.9	29.3	5.4	1.1	26.1	2.2
	男性：50～60歳代（n=134）	4.5	28.4	21.6	41.0	19.4	14.9	18.7	1.5	16.4	29.1	3.0	2.2	26.1	2.2
	男性：70歳以上（n=101）	0.0	25.7	12.9	19.8	9.9	1.0	7.9	0.0	26.7	26.7	9.9	2.0	32.7	10.9
	女性：10～20歳代（n=53）	18.9	9.4	13.2	15.1	13.2	20.8	15.1	1.9	18.9	28.3	3.8	1.9	30.2	1.9
	女性：30～40歳代（n=173）	38.2	31.2	16.2	36.4	27.2	23.1	20.2	11.0	27.2	38.7	4.6	2.3	16.8	1.7
	女性：50～60歳代（n=175）	5.1	21.1	26.3	52.0	18.3	13.7	19.4	6.3	20.6	44.0	9.1	4.0	16.0	4.6
	女性：70歳以上（n=141）	0.7	25.5	11.3	26.2	9.2	2.1	9.2	2.8	22.0	25.5	9.2	3.5	34.0	10.6
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂（n=127）	15.7	26.8	16.5	40.2	18.1	21.3	20.5	7.1	22.0	33.1	7.1	1.6	22.0	6.3
	若葉・調和（n=120）	14.2	20.8	15.8	30.8	18.3	10.8	20.0	4.2	20.8	27.5	8.3	0.8	29.2	4.2
	上ノ原・柏野（n=82）	7.3	26.8	17.1	30.5	11.0	9.8	7.3	4.9	15.9	29.3	1.2	2.4	28.0	4.9
	北ノ台・深大寺（n=72）	8.3	22.2	13.9	29.2	13.9	6.9	11.1	2.8	30.6	33.3	5.6	4.2	27.8	2.8
	第二・八雲台・国領（n=130）	13.8	24.6	21.5	28.5	13.8	10.8	13.1	6.2	21.5	31.5	6.2	2.3	26.2	8.5
	染地・杉森・布田（n=112）	15.2	24.1	16.1	31.3	21.4	16.1	25.0	8.0	20.5	28.6	8.9	3.6	27.7	5.4
	第一・富士見台・多摩川（n=142）	16.2	28.9	16.9	43.7	22.5	18.3	18.3	6.3	20.4	36.6	9.9	2.1	16.9	4.2
	第三・石原・飛田給（n=130）	14.6	24.6	16.2	32.3	21.5	14.6	16.2	4.6	23.8	35.4	3.1	4.6	25.4	4.6

5 市民の権利を守る取組についておたずねします

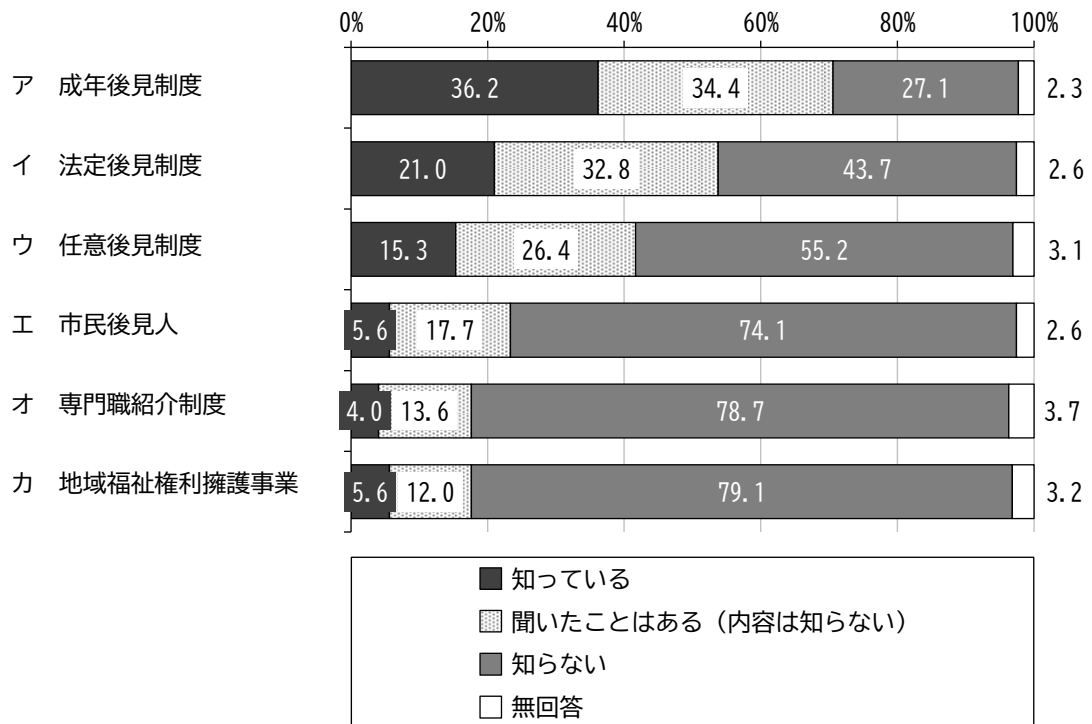
問 23 市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は,[ア 成年後見制度(39.3%)]が最も多く,[イ 法定後見制度(25.9%)],[ウ 任意後見制度(19.4%)]が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると,大きな変化はみられない。



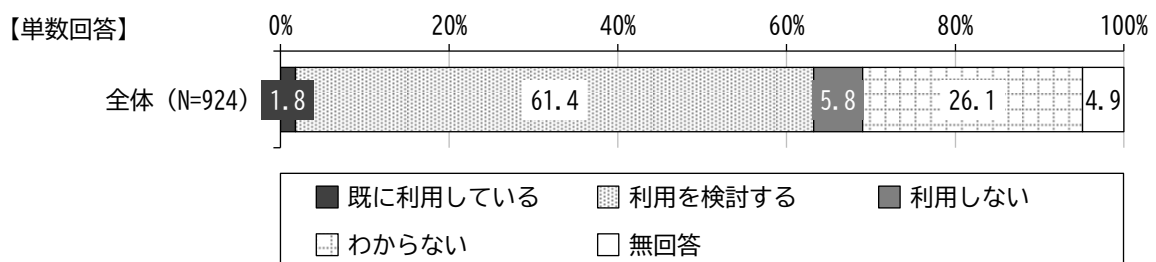
※ [キ あんしん未来支援事業] は今回調査のみの項目

【単数回答】令和4年度 全体 (N=815)



問24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、前問（問23）のいずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。（1つに○）

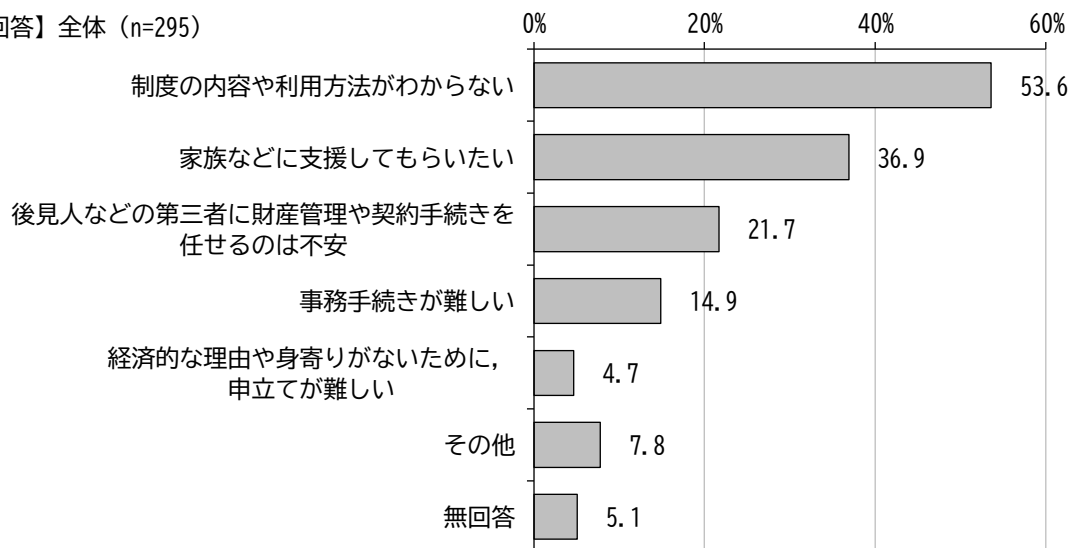
○ 問23の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、「利用を検討する（61.4%）」が最も多く、「わからない（26.1%）」、「利用しない（5.8%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」,「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない,または,わからないと答えた主な理由は何ですか。
(いくつでも○)

- 制度を利用しない,または,わからないと答えた主な理由は,「制度の内容や利用方法がわからない(53.6%)」が最も多く,「家族などに支援してもらいたい(36.9%)」,「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安(21.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (n=295)

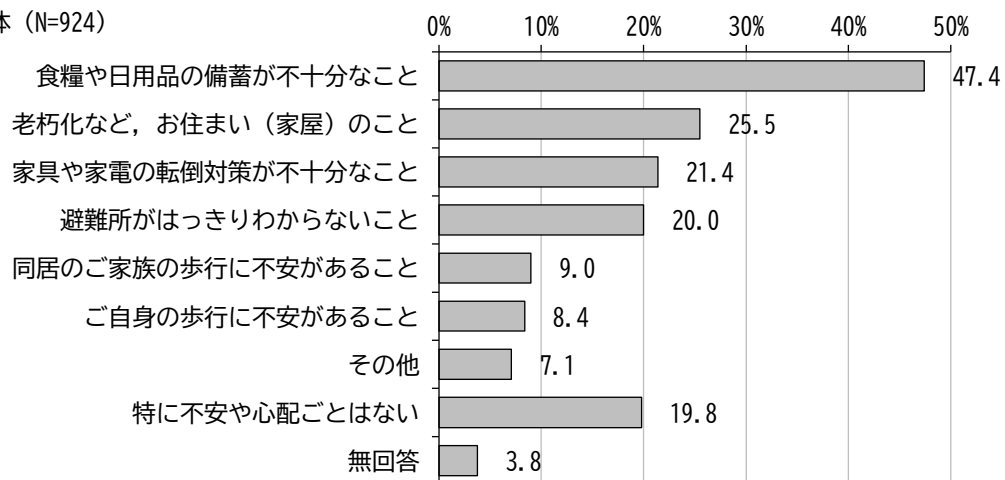


6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 25 災害時についての不安や心配ごとはありますか。(いくつでも○)

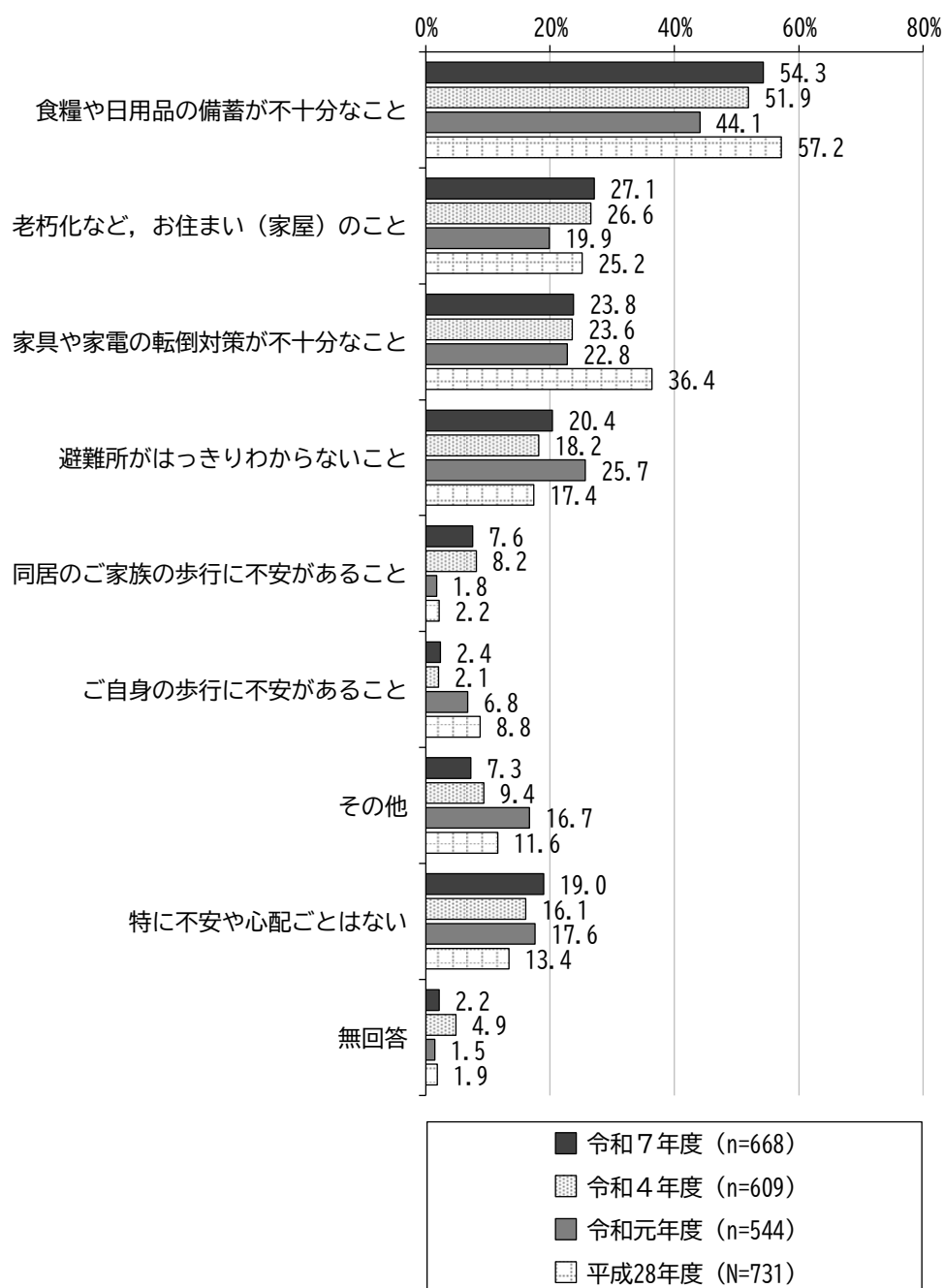
- 災害時についての不安や心配ごとは、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと(47.4%)」が最も多く、「老朽化など、お住まい(家屋)のこと(25.5%)」、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと(21.4%)」が続いている。

【複数回答】全体(N=924)



- 経年で比較すると、令和7年度も平成28年度、令和元年度、令和4年度と同様に「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が最も多くなっている。また、令和4年度と同様に「老朽化など、お住まい（家屋）のこと」が2番目に多くなっている。

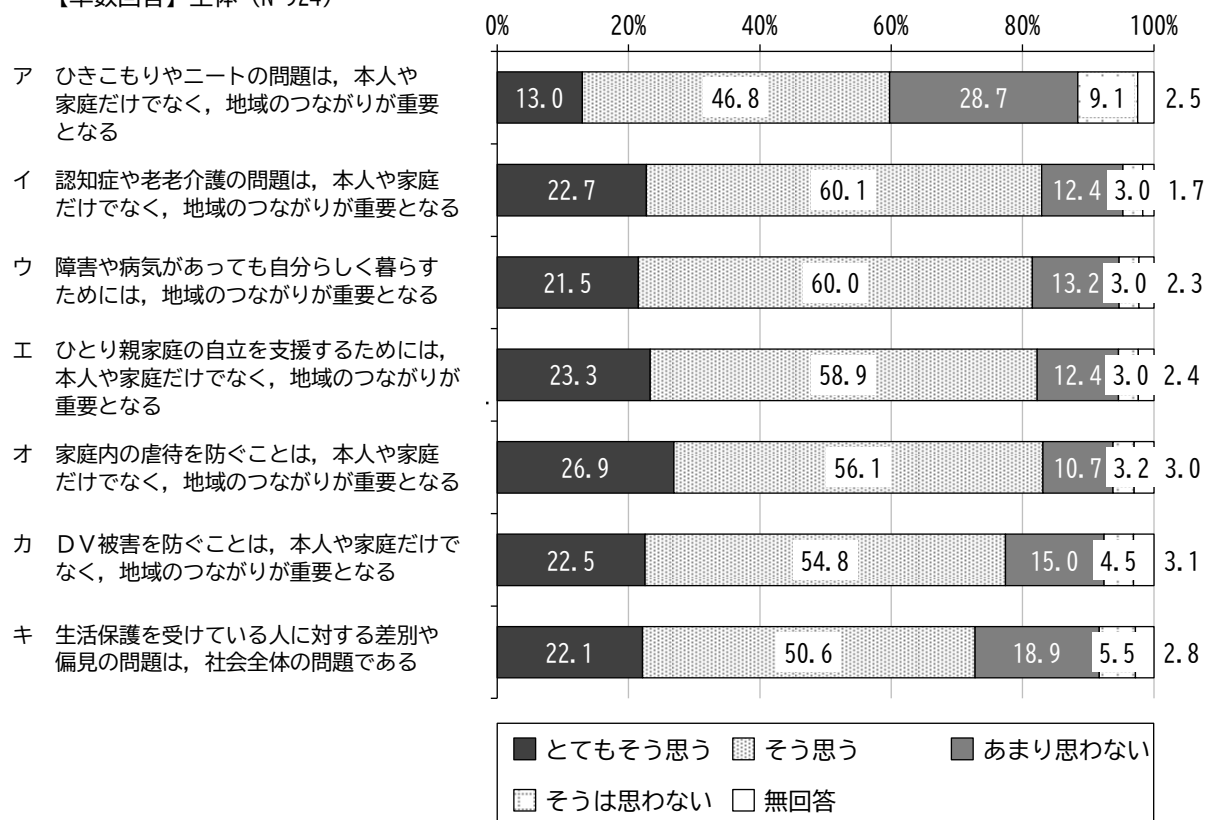
【複数回答】



問 26 地域のつながりに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 地域のつながりに対する考え方について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、[オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (83.0%)] が最も多く、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.8%)], [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.2%)] が続いている。
- 一方、「あまり思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (37.8%)] が最も多く、[キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である (24.4%)], [カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (19.5%)] が続いている。

【単数回答】全体 (N=924)



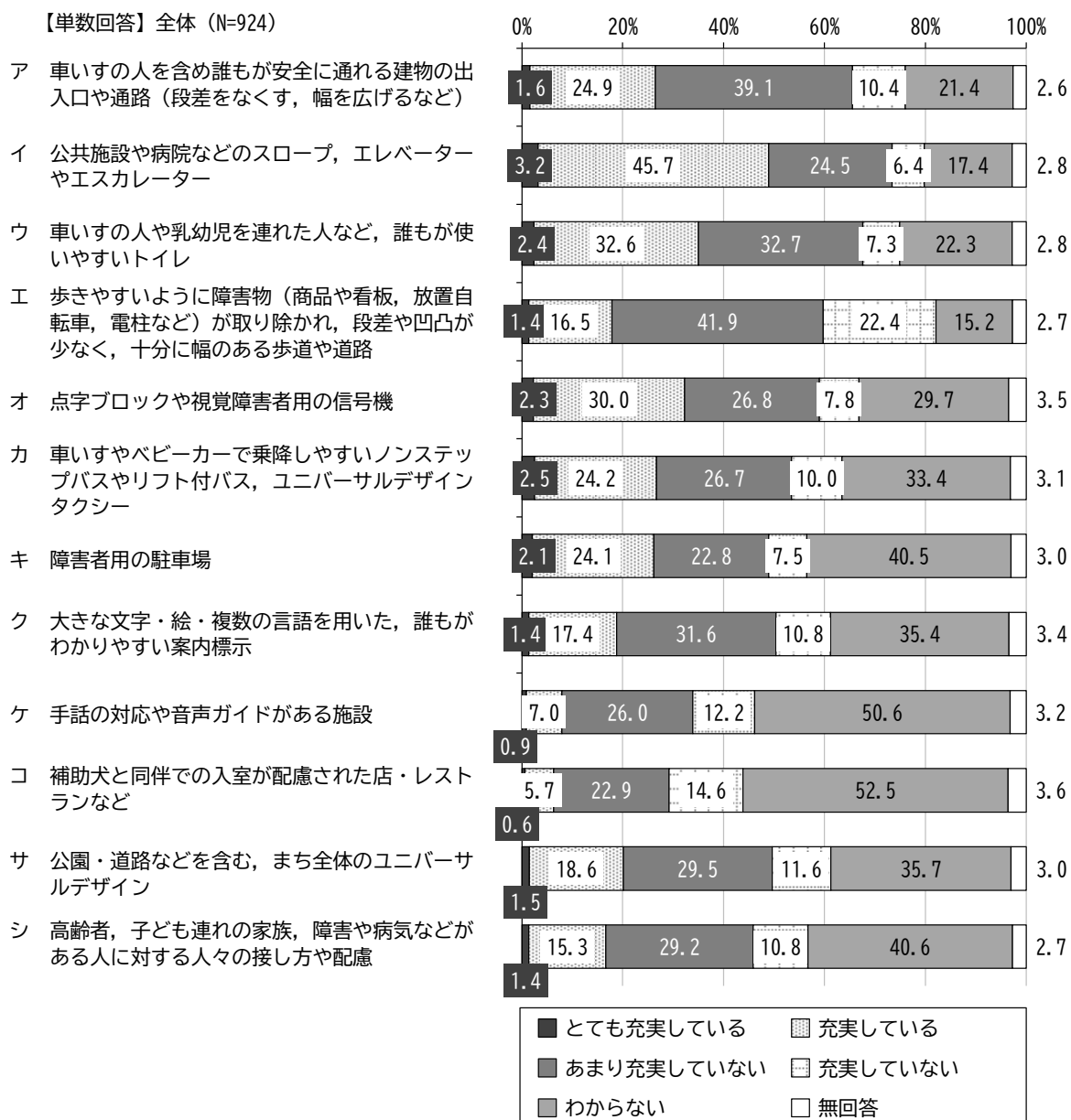
- 経年で比較する（令和7年度調査、令和4年度調査のみの項目を除く）と、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる]と [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる] について、今回の『そう思う』割合がこれまでで最も多くなっている。
- 一方、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる] について、今回の『そう思わない』割合がこれまでで最も多くなっている。

単位：％		とても そう思う	そう 思う	あまり 思わない	そうは 思わない	無回答	『そう思う』	『そう思わない』
ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	12.4	44.2	32.2	10.3	0.9	56.6	42.5
	令和4年度（n=609）	14.1	37.6	36.6	10.7	1.0	51.7	47.3
	令和元年度（n=544）	14.0	42.0	33.1	9.4	1.5	56.0	42.5
	平成28年度（N=731）	10.0	36.9	39.1	9.7	4.2	46.9	48.8
イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.1	60.3	12.4	3.6	0.6	83.4	16.0
	令和4年度（n=609）	32.3	53.0	11.3	2.0	1.3	85.3	13.3
	令和元年度（n=544）	27.2	58.9	10.1	2.9	0.9	86.1	13.0
	平成28年度（N=731）	21.6	62.2	11.2	1.4	3.6	83.8	12.6
ウ 障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる	令和7年度（N=924）	21.5	60.0	13.2	3.0	2.3	81.5	16.2
	令和4年度（N=815）	24.9	55.3	14.6	1.7	3.4	80.2	16.3
エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.7	60.2	12.1	3.3	0.7	83.9	15.4
	令和4年度（n=609）	27.4	54.8	14.0	2.8	1.0	82.2	16.8
	令和元年度（n=544）	22.8	59.2	14.5	2.0	1.5	82.0	16.5
	平成28年度（N=731）	19.2	58.8	15.2	2.9	4.0	78.0	18.1
オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	29.5	56.6	9.9	3.1	0.9	86.1	13.0
	令和4年度（n=609）	28.1	47.5	18.4	4.6	1.5	75.6	23.0
	令和元年度（n=544）	38.8	50.6	7.5	1.8	1.3	89.4	9.3
	平成28年度（N=731）	27.6	57.6	9.0	1.9	3.8	85.2	10.9
カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる	令和7年度（n=668）	23.2	56.1	15.6	4.2	0.9	79.3	19.8
	令和4年度（n=609）	22.5	47.3	22.8	6.2	1.1	69.8	29.0
	令和元年度（n=544）	27.0	53.5	15.1	3.3	1.1	80.5	18.4
	平成28年度（N=731）	19.3	52.0	21.1	3.3	4.4	71.3	24.4
キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である	令和7年度（N=924）	22.1	50.6	18.9	5.5	2.8	72.7	24.4
	令和4年度（N=815）	17.2	49.2	24.7	5.0	3.9	66.4	29.7

※ [ウ 障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる]、[キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である] は令和7年度調査、令和4年度調査のみの項目

問 27 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

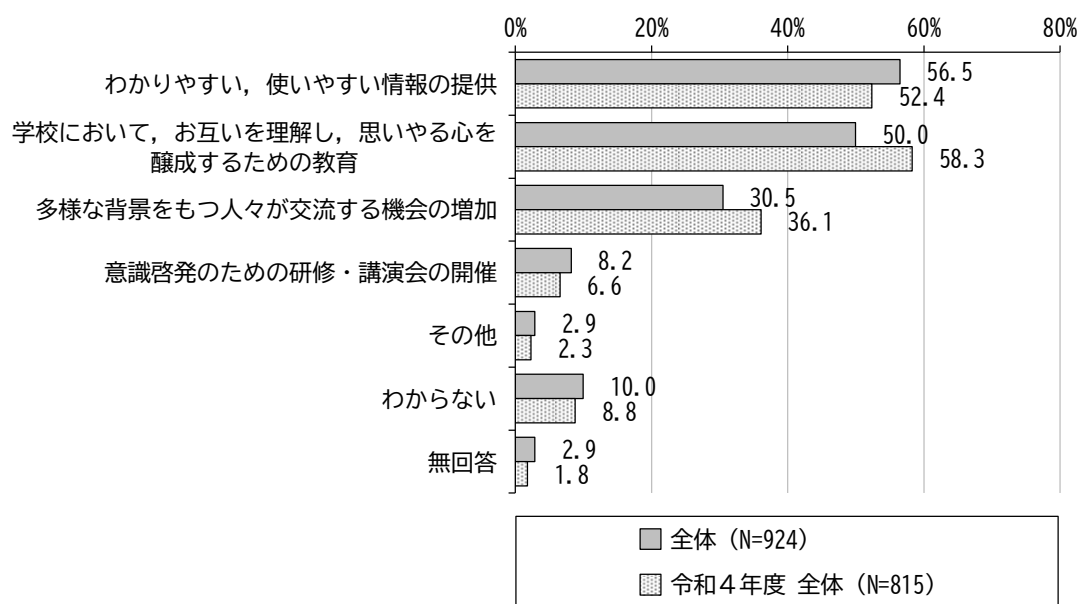
- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (48.9%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ (35.0%)], [オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機 (32.3%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路 (64.3%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど) (49.5%)], [ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内標示 (42.4%)] が続いている。



問 28 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

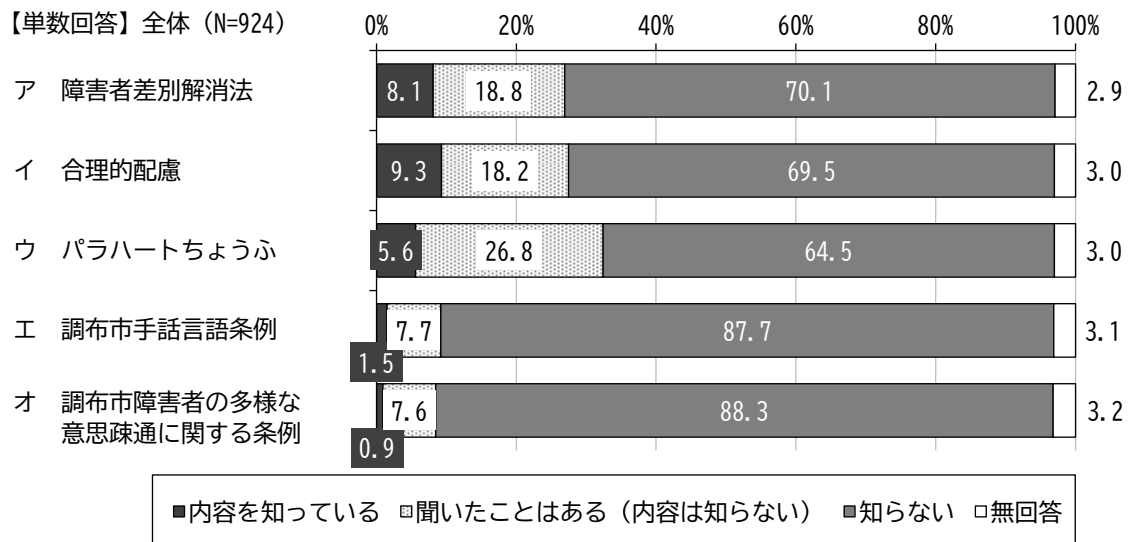
- 心のバリアフリー化に向けた取組は、「わかりやすい、使いやすい情報の提供（56.5%）」が最も多く、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育（50.0%）」、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加（30.5%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育」が8.3ポイント、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加」が5.6ポイント低くなっている。

【複数回答】



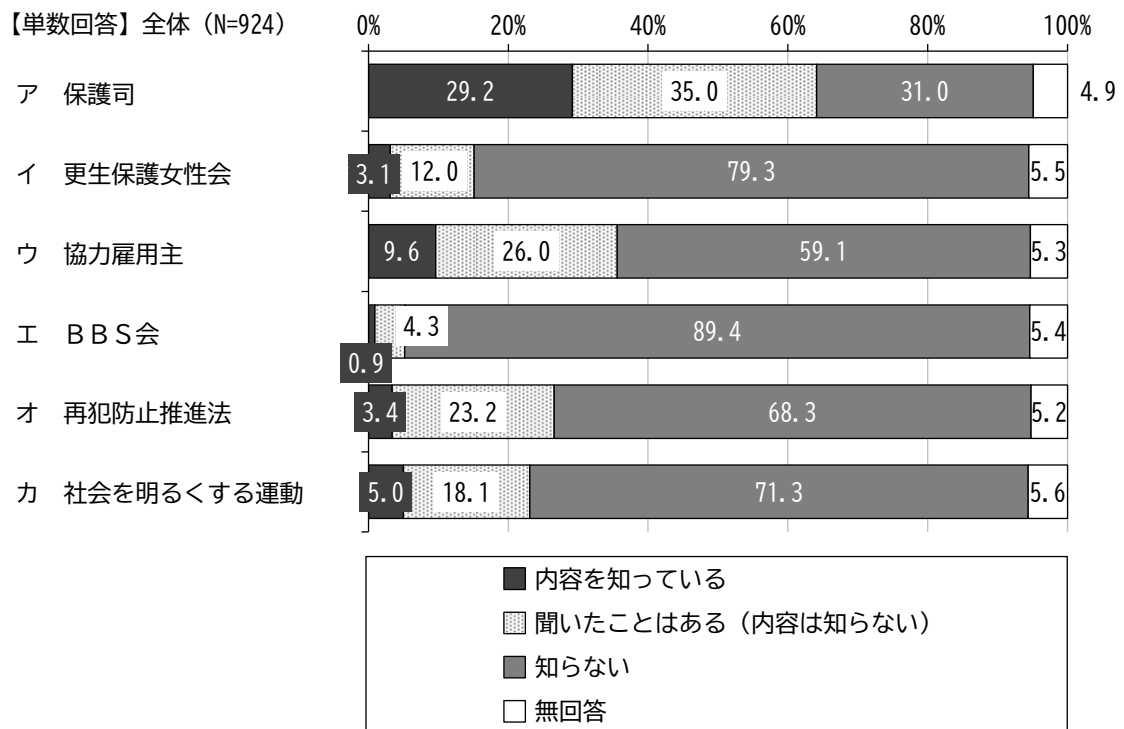
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方について、「内容を知っている」の割合は，[イ 合理的配慮（9.3%）]が最も多く，[ア 障害者差別解消法（8.1%）]，[ウ パラハートちょうふ（5.6%）]が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（1.5%）]，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（0.9%）]が続いている。



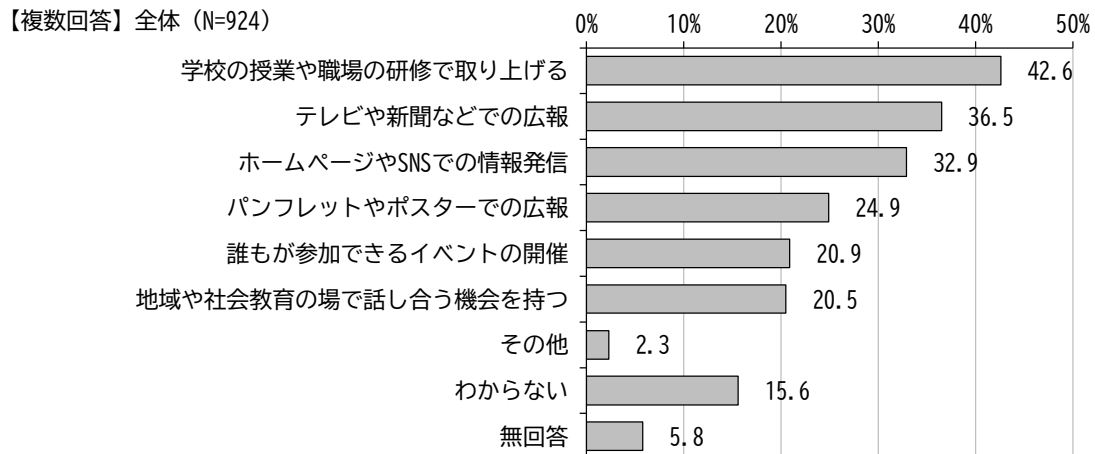
問 30 犯罪や非行の防止，犯罪や非行をした人たちの更生（立ち直り）に協力する下記の民間協力者や活動などを知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 犯罪や非行の防止，犯罪や非行をした人たちの更生（立ち直り）に協力する民間協力者や活動などの認知度について、「内容を知っている」の割合は，[ア 保護司（29.2%）]が最も多く，[ウ 協力雇用主（9.6%）]が続いている。それ以外の項目は「知らない」が6割を超えている。



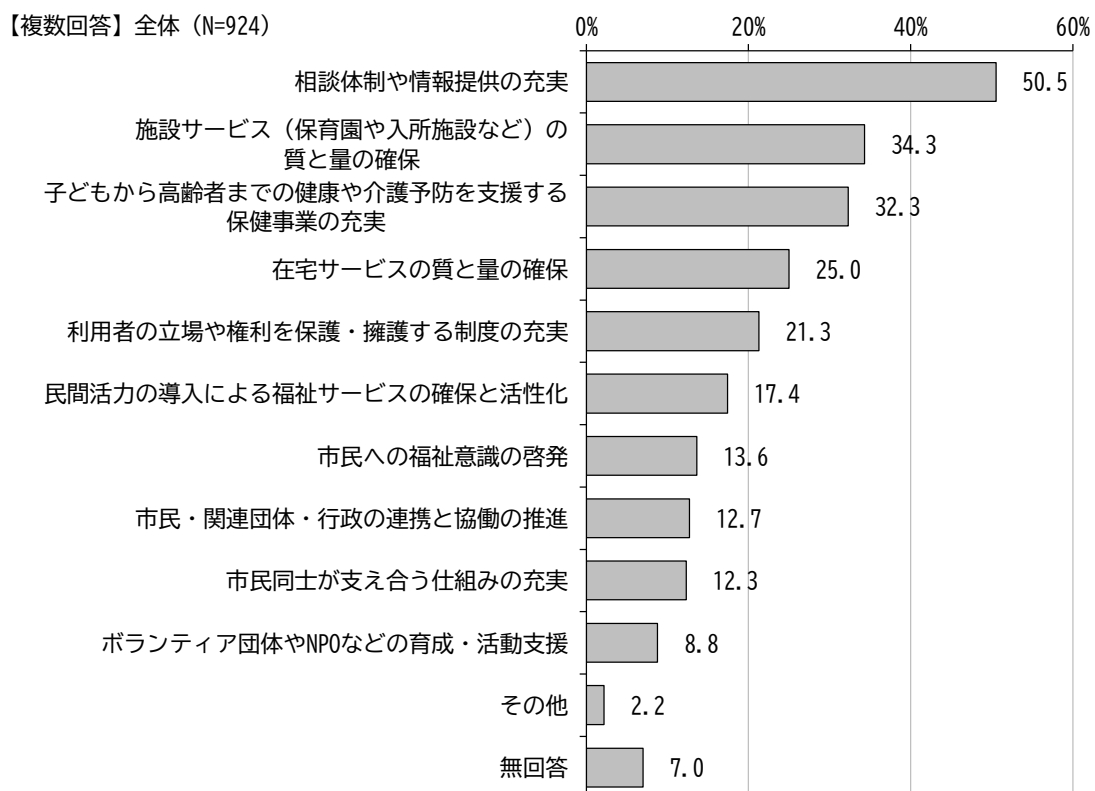
問 31 更生支援（再犯防止）に関して広く市民の理解や関心を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。（3つまで○）

- 更生支援（再犯防止）に関して広く市民の理解や関心を深めるために必要な取組は、「学校の授業や職場の研修で取り上げる（42.6%）」が最も多く、「テレビや新聞などでの広報（36.5%）」、「ホームページやSNSでの情報発信（32.9%）」が続いている。



問 32 調布市の福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（3つまで○）

- 市の福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「相談体制や情報提供の充実（50.5%）」が最も多く、「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保（34.3%）」、「子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実（32.3%）」が続いている。



－ 回答者属性分析 －

- 市の福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組の割合を年代別にみると、10 歳代、30 歳代で「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保」、それ以外の年代で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。
- 性・年代別にみると、男性、女性ともにすべての年代で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「相談体制や情報提供の充実」が最も多くなっている。

単位：％		相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	子どもから高齢者までの健康の充実や介護予防を支援する保健事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保	ボランテニア団体や N P O などの育成・活動支援	市民同士が支え合う仕組みの充実	民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化	市民・関連団体・行政の連携と協働の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体 (N=924)		50.5	21.3	32.3	25.0	34.3	8.8	12.3	17.4	12.7	13.6	2.2	7.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	8.3	25.0	50.0	16.7	16.7	8.3	33.3	0.0	0.0	8.3
	20歳代 (n=79)	57.0	36.7	32.9	17.7	32.9	2.5	7.6	17.7	21.5	10.1	2.5	0.0
	30歳代 (n=119)	44.5	25.2	37.8	17.6	54.6	4.2	16.0	14.3	10.1	12.6	2.5	1.7
	40歳代 (n=147)	50.3	19.7	33.3	19.0	32.7	12.2	9.5	20.4	15.0	12.9	2.7	3.4
	50歳代 (n=168)	54.8	22.0	36.3	25.6	31.0	7.7	14.9	19.6	13.1	19.0	1.2	0.6
	60歳代 (n=143)	53.8	15.4	30.8	29.4	33.6	10.5	14.7	21.0	14.0	15.4	1.4	9.1
	70歳代 (n=134)	55.2	20.1	29.1	29.9	29.9	11.2	10.4	14.2	8.2	10.4	3.0	13.4
	80歳以上 (n=113)	39.8	17.7	27.4	33.6	25.7	9.7	11.5	14.2	8.0	14.2	2.7	18.6
性・年代別	男性：10～20歳代 (n=38)	47.4	31.6	23.7	18.4	31.6	2.6	10.5	23.7	28.9	7.9	2.6	0.0
	男性：30～40歳代 (n=92)	46.7	27.2	31.5	17.4	39.1	12.0	13.0	14.1	13.0	16.3	3.3	3.3
	男性：50～60歳代 (n=134)	50.7	21.6	33.6	25.4	26.9	11.2	12.7	21.6	10.4	17.9	1.5	2.2
	男性：70歳以上 (n=101)	51.5	12.9	33.7	28.7	30.7	11.9	8.9	14.9	7.9	14.9	3.0	14.9
	女性：10～20歳代 (n=53)	58.5	37.7	34.0	18.9	37.7	5.7	7.5	11.3	18.9	9.4	1.9	1.9
	女性：30～40歳代 (n=173)	48.0	19.7	37.6	19.1	43.9	6.9	12.1	19.7	12.7	11.0	2.3	2.3
	女性：50～60歳代 (n=175)	57.7	16.0	34.3	28.6	36.0	7.4	16.6	19.4	16.0	16.6	1.1	6.3
	女性：70歳以上 (n=141)	46.1	24.1	24.8	34.8	26.2	9.2	12.1	13.5	8.5	10.6	2.1	15.6
福祉圏域別	緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	49.6	18.1	38.6	26.0	39.4	7.1	13.4	18.9	14.2	10.2	1.6	4.7
	若葉・調和 (n=120)	47.5	25.0	26.7	24.2	36.7	6.7	15.0	11.7	10.0	20.8	1.7	8.3
	上ノ原・柏野 (n=82)	51.2	24.4	26.8	34.1	29.3	9.8	8.5	20.7	9.8	9.8	0.0	8.5
	北ノ台・深大寺 (n=72)	45.8	30.6	40.3	19.4	30.6	13.9	12.5	12.5	11.1	9.7	4.2	4.2
	第二・八雲台・国領 (n=130)	56.2	16.9	31.5	22.3	31.5	11.5	10.8	15.4	16.2	13.1	2.3	9.2
	染地・杉森・布田 (n=112)	45.5	25.0	33.9	25.0	33.0	6.3	9.8	17.9	16.1	9.8	3.6	6.3
	第一・富士見台・多摩川 (n=142)	57.0	20.4	29.6	26.1	33.1	8.5	17.6	23.2	13.4	16.2	2.8	4.9
	第三・石原・飛田給 (n=130)	48.5	17.7	32.3	23.8	37.7	9.2	10.0	17.7	10.0	16.9	1.5	7.7

問 33 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○ 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、401 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 自治会活動の活性化 イ 地域活動の活性化 ウ 地域活動の情報 エ 近所のつながり	95
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ サービス等の情報提供 ウ 相談体制の充実	108
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ バリアフリー化 ウ 防災の強化 エ 防犯の強化	95
取組番号の選択なし		23
3つの取組以外で気になっていること	ア 生活環境 イ 市の施策 ウ 医療、福祉、子育て、防災 エ アンケート	80
合計		401

○ 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 自治会活動の活性化

- 自治会活動などを通じて、多数の人が気軽に参加出来るような体制をつくり運営できると良い。（男性、60 歳代）
- 自治会に参加していますが役員がお年寄りだらけで不安です。我が家は古いマンションのため、マンションごと加入が必須となっていますが、周りの新しいマンションの方は、自治会の存在すら知らないだろうし、当然入り方も分からないと思います。マンション管理組合もほぼ外注のような時代ですが「自治会」はもっと分かりやすく、参加メリットと入会方法を各自治会やったほうが良いのだろうと思います。（女性、40 歳代）

- 自治会への加入率を上げるための施策がほしいところ。災害等があったときにも、結局自治会のような組織がしっかりしていないと支援もなかなか届かない。(男性, 50 歳代)

イ 地域活動の活性化

- 同じ地域内で組に分かれて運動会を行う等、一緒に活動する機会、顔を合わせられる機会があればいいのではないかと思います。(女性, 30 歳代)
- 障害のある人, 中学生, 高校生, 子供, 赤ちゃん連れの人, 高齢の人, 誰もが立ち寄れるホットスペース的な所があって, たまにイベント的な何かを作ってみようみたいな催しがある。お互いにコミュニケーションを取れる様な場所作りがあったらいいと思います。居場所のない人にとっては, 居場所も出来てよいのでは。ただ管理人的な人が居ないと難しい, アドバイスをしてもらって管理する人の育成もしなくてはいいと思います。例えば編物, 縫物を高齢の人に教えてもらうとか。そういう所で相談, サービスにつなげていけたら良いと思います。(女性, 60 歳代)
- 運営する為の資金をもう少し欲しい。道具や設備を整えるための対応を早くして欲しい。(男性, 20 歳代)

ウ 地域活動の情報

- 地域活動は特定の人にしか認知されていないように感じます。子どもが小学生のときには, 地域運動会があり地域の人と交流したりしましたが, 子どもが大きくなると, 特に私たちのような外から来た人には, 地域活動に参加する機会がないように感じます。どんな活動があるのか知らないので, もっと広報していただけたらありがたいです。(女性, 40 歳代)
- 調布のパンフレット等に色々な情報を載せているが, 情報が多すぎて, 読む気になれない。その都度情報を絞って配信した方が, 分散されずに認知度が高まるのではないか。(女性, 40 歳代)
- 地域活動に一時参加したことがあるが, 「時間的な制約を受ける」ことが参加の足かせになると感じた。活動・会合の動画配信があれば, その場でどのような発言があったのか, 活動方向性がどうなっているのかが, リアルタイムでなくても知ることができる。対面や実際に会合に参加して得られる情報や体験・提供できる活動もあるだろうが, 活動を知ってもらう・参加意識を持ってもらうために, もっと技術を活用する余地はあるのではないかと思います。すでにやっていたらすみません。(男性, 60 歳代)

エ 近所のつながり

- どんどん無くなっている自治体や学校エリアでの地域の繋がり復活。自身や災害時に助け合うことが出来るよう基盤づくり。お金を出して支援していく! 地区のお祭りなどを通してやる。(女性, 50 歳代)
- 都会的な生活により, 居住者の出入りがあるのは仕方ないが, それにより近所付き合いが減って防犯の目も薄くなることを危惧している。また, 災害発生時の即時互助の関係を作れるかも不安に感じる。(男性, 30 歳代)
- 色々な背景をもつご家庭が増えている今, 家族の安心安全のためにも交流を深めることに抵抗があることも事実です。昔のようにいかないと思うことも多くあります。(女性, 30 歳代)

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- 福祉サービス等、こちらから調べて聞きに行かない限り案内がない。福祉サービスを利用したいと思っても、手続きが複雑、時間と労力を要し利用しづらい。(男性, 30 歳代)
- 今の時代は、ご近所付き合いというものを嫌う傾向にあると思うので(私自身も出来るだけ近所の人とは関わりたいくない)、それよりも個人の権利を保障するような制度やサービスを充実させた方がより住みやすく快適な環境を作る事が出来るのではないかと考えます。(女性, 10 歳代)
- 私は入間町に住んでいる為、調布市のサービスや相談窓口と言うと、調布駅近くの市役所などの施設に行かないと、受けられないというイメージがあります。調布市のはずれに住んでいる人達は、調布の中心迄行かないと具体的なサービスが受けられないという事です。入間町にも支所はありますが、わざわざ行かないとたどり着かない場所にあり、何かのついでと言う事が出来ません。提案したいのは、23 区でも見られる様な駅に行政サービスを受けられる支所を置いては如何でしょうか。入間町近辺だと仙川か、つつじが丘の駅に行政の窓口があるとサービスを受けられる、情報をキャッチ出来る、市民の意見も聞く事が出来て、市としても活性化するのではないかと思います。(女性, 50 歳代)

イ サービス等の情報提供

- ②相談・サービスの充実だけでなくどのようにその情報を周知するか？を検討する事を重要視する事が大事と考えている。ホームページ・SNSへ載せる事で満足しても見たい人や知っている人のみへの周知となってしまう。頻繁に目に入るようなもの(広報誌や駅・バス広告等)で、周知が大事だと思う(あと、地域の掲示板等)。広報誌は誰向けのお知らせかを大きく記載し、詳細は本文(字のみだけは避けられる為、分かり易くする必要ありだが)、費用面の相談も必要とは思いますが。③にも関連だが、災害関連情報や事件(以前頻発していた強盗等)も周知して欲しい。近隣で発生しても気付かず過ごし…となるといざという時に対策、検討も出来なくなる為。(女性, 30 歳代)
- 何を何処に相談すればよいか分からない時、最初にワンストップで何でも相談出来る所の連絡先、情報が広く周知されていると良いと思う。警察は110番、火事は119番の様に。CSWやサポーターについての周知が足りないと思う。(女性, 70 歳代)
- 日頃、必要に感じていない福祉やそれに関する市としての活動について、知らない人や興味のない人にも広く知れるような広報(知る機会)にもう少し取り組んでいただけるとありがたいです。(このようなアンケートもひとつの機会、きっかけになると思いました)(男性, 60 歳代)

ウ 相談体制の充実

- 市の相談窓口を増やし、相談しやすい環境を作って欲しい。(男性, 70 歳代)
- 相談できる環境への取り組みはとても重要だと思いますが、相談したい内容・個人の状況は人それぞれのため、例えば「福祉サービス」の相談窓口といった専門窓口でなく、何でも相談できる窓口があれば良いと思う。まず、状況をヒアリングすることで

そこから適切な窓口を紹介するほうが様々なサービスに連携しやすいと思うし、どこに相談すべきか分からない人もとりあえず助けを求めやすくなると思う。実際私も相談したい内容があっても HP に記載してある内容ではなくこれは相談して良いのか、そもそも分からない…ということがあった。お年寄り等はなおさらだと思う。

(女性, 30 歳代)

- 行政の相談やサービスを利用したいときに、実際に行動を起こすにはハードルを感じます。スマホで出来る、軽い内容でも相談できるなど、気軽に利用できるような仕組みや周知があるといいなと思います。(女性, 30 歳代)
- 相談したいとき、情報を取りたいとき、市役所の営業時間外でもチャットや AI によってある程度の情報が得られるシステムがあるといいと思います。(女性, 50 歳代)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 小さい子供がいる為、交差点の見守り、旗振りの方とかを小学校の下校に合わせてお願いしたい。公園のパトロール、地域のパトロール強化。道路が狭いし、歩道が危ない所があるので(旧甲州街道)安全対策をして欲しい。(女性, 40 歳代)
- 調布は幹線も住居の周りの道路も、歩道がなかったり道自体が狭かったりという状況。バリアフリーや子育て環境の観点で早く対応を充実させるべきです。(女性, 60 歳代)
- 歩道や車道が狭い、でこぼこ。広い公園、大きい遊具が少ない。街灯が少ない。交通ルールが守られていない。(男性, 30 歳代)

イ バリアフリー化

- 高齢者や心身障がい者が住みやすい便利なやさしい町づくりに努力して欲しい。(男性, 70 歳代)
- 車椅子での移動の時、段差をなるべく少なくして欲しい!!実際バスには乗りづらいです!!(女性, 70 歳代)

ウ 防災の強化

- 調布市は災害発生時の対策について積極的に取り組んでいるが、避難した経験からすると量の点で十分ではないように思う。(男性, 40 歳代)
- 調布市からの警報アナウンスが時々流れますが、家中でも外に出ても聞き取れない(音はきこえるが内容が分からない)スマホで聞ければと思います。地震警報は鳴りますが。(女性, 70 歳代)
- 防犯や災害への取り組み。例えば水害が多く発生しているにも関わらず、自宅前の排水溝等にカバーを掛けている住宅が散見される。市では市報等で周知していると言うが、発信すれば良いと言うことではなく個別にチラシを入れたり対話が必要だと思います。防犯面からも野川河川周辺の除草等の整備が必要。またすぐに伸びてしまうので三鷹市のように石での整備をした方が良くと思います。サイクリング道路にしても東京都との協議の上整備してほしいと思います。(男性, 60 歳代)

エ 防犯の強化

- 街灯が少なく、夜間は防犯面で恐怖を感じます。特に裏道は真っ暗です。(女性, 70 歳代)
- 見回りの実施の強化。(男性, 30 歳代)
- 景気の悪化に伴い様々な犯罪が増えており、知識がないと対応を誤ってしまう可能性も高まります。高齢になるにつれ、新しい技術などには疎くなっていくことが予想されるので、最新の犯罪の手法を常に周知することは必要なのかなと感じます。(女性, 40 歳代)

3つの取組以外で気になっていること

ア 生活環境

- タバコを吸う人が多いので取り締まりを強化して欲しいです。条例による受動喫煙禁止のエリア内でも散見されます。(男性, 40 歳代)
- 自転車専用レーンをたくさん作ってください。(男性, 10 歳代)
- 市民を増やすだけ増やしても、そこに追いつかないものが多い。駅前の駐輪場が少ないとか。(女性, 40 歳代)

イ 市の施策

- 調布駅前の開発が行きあたりばったりに感じており、特に助けが必要な人たちや子どもたちにとってより良いものを作ろうという意識を感じられない。また、社会福祉協議会の施設を移設するという話を聞いたことがあるのですが、それも利用者を第一に考えて選択をしていってほしいと思います。(女性, 30 歳代)
- 地域の繋がり深化をターゲットにするという意味では、市役所前でよく行われている青空マーケットのような催事を各地域で年一回でも開催するのも良いのかなと思います。(飛田給駅の FC 東京とタッグを組んだイベント等は効果ありだと感じています。) 調布市は他地方公共団体よりも恵まれている点が沢山あるので、人との繋がりを持ちたいと思わない人へも自然とアプローチできる方法を模索していきたいですね。(男性, 40 歳代)
- 様々な取り組みが本当に必要な人に届く仕組みづくりを考えて欲しい。取り組みに対し、深く理解をし、必要性を感じさせる事ができなければ、ボランティアを募るのは困難かと思います。(女性, 50 歳代)

ウ 医療、福祉、子育て、防災

- 学校に行けていない子、不登校の子どもに対しての支援が乏しい。学校の先生の負担大の為、専門に対応する人を学校に置く事。(女性, 50 歳代)
- 私は四肢障害ではないので利用はしないが、市内の様々な駐車場の障害者用駐車スペースに、明らかに健常者が駐車しているのをよく見かける。障害者用だという事を誰もが気づくようにハッキリ表示してほしい。(女性, 50 歳代)

エ アンケート

- 今回のアンケートで調布市がいろいろな取り組みを行っていることがわかったが、ほとんど認知していなかった。機関誌等は読まずに捨ててしまうため、他の広報が必要だと思う。(男性, 30 歳代)
- 市役所からのアンケートが多過ぎる。回答率を上げたいのであれば、質問項目を減らした方がいい。10 分程度のアンケートであれば苦にならない。(女性, 40 歳代)